

# Maxi Move



#### 警告

怪我を避けるため、製品を使用する前に必ず本取扱説明書及び付属の文書をよくお読みください。



本取扱説明書を必ずお読み下さい。

#### 意匠方針と著作権

® および ™ は Arjo グループ会社に属する商標です。

© Arjo 2020.

Arjo の基本ポリシーは継続的な製品の改善を掲げているため、事前に通知することなく設計を変更することがあります。この出版物の内容は、全部もしくは一部に関わらず Arjo 社の同意なしに、転写することを禁じられています。

<b>一般情報</b>	<b>5</b>
本取扱説明書で使用する定義	5
製造元情報	5
使用目的	5
条件	6
想定製品寿命	6
患者の移乗に必要な介助者数に関するポリシー	6
<b>安全の手順</b>	<b>7</b>
記号	7
在宅環境に関する注意事項	8
<b>製品説明 / 機能</b>	<b>9</b>
この取扱説明書で参照する部品	9
スリング	11
操作方法と機能	13
コントロール手元スイッチ	13
コントロールパネル	13
停止ボタン（赤）	13
電源ボタン（緑）	13
緊急降下機能	14
自動カットアウト	14
挟み込み防止機能	14
バッテリーインジケータ	14
スリープモード	14
使用ログ	15
電動シャーシー脚部	15
キャスターブレーキ	15
ジブとスプレッダーバー / ストレッチャーフレーム	15
<b>Maxi Move の使用方法</b>	<b>16</b>
患者を移乗する前に	16
電動「V」シャーシー脚部	16
MAXI MOVE「ロックアンドロード」システム	16
スプレッダーバーのテスト	17
DPS スプレッダーバーの使用	18
椅子からの持ち上げ方法	18
ベッドから持ち上げるには	20
床からの持ち上げ方法	21
電動 DPS スプレッダーバー	22
電動式 DPS スプレッダーバーの管理	23
ループ・スプレッダーバーの使用	23
椅子からの持ち上げ方法	24
ベッドから持ち上げるには	25
床から持ち上げるには	25
ストレッチャーフレームの使用	25
ソフトストレッチャーの使用	25
<b>スケール</b>	<b>28</b>
患者用スケールに関する情報	28
マーク / シール C.E.（C.E. ユニットののみ）	28
再検査	28
表示記号 / 機能	28
過重量警告記号	29
方法 A — 患者がスリング懸架される前の計量	29
方法 B — 既にスリング懸架された患者の計量	30
測定単位	31
<b>スケール — ハンドセットに関する注意事項ミニガイド</b>	<b>32</b>

# 目次

---

<b>バッテリー充電中</b> .....	<b>34</b>
バッテリーパック .....	34
バッテリーの取り外し .....	34
バッテリーの充電 .....	34
バッテリーと充電器の安全対策 .....	35
<b>MAXI MOVE のケア</b> .....	<b>36</b>
スリングの洗浄と管理 .....	36
リフトの洗浄、消毒、ケア .....	36
Maxi Move の特別な洗浄・消毒箇所 .....	37
必須の日常点検 .....	39
定期的なテスト .....	39
点検整備に関するアドバイス .....	39
<b>トラブルシューティング</b> .....	<b>40</b>
<b>ラベル</b> .....	<b>41</b>
<b>技術仕様</b> .....	<b>42</b>
リフト寸法 .....	43
<b>付録 — スケール重力コード設定</b> .....	<b>45</b>
重力コード設定の表示 .....	45
<b>電磁両立性</b> .....	<b>46</b>
電磁コンプライアンス .....	46
電磁エミッション .....	46
電磁イミュニティ .....	47

この度は、Arjo 製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

当社はお客様のニーズにお応えすることに専念しており、最高の製品とともに、お客様のスタッフが Arjo 製品から最大のメリットを引き出せるよう、製品トレーニングも提供しております。Arjo 製品に関する詳細情報が必要な場合、予想外のインシデントが起こった場合、設置、使用方法、または保守に関するサポートが必要な場合は、Arjo 事業所までご連絡ください。

機器もしくは福祉機器に関連して、お客様または患者様に影響する重大な事象が発生した場合、ユーザーまたは患者様は、その事象を機器製造元あるいは販売元に必ず報告してください。欧州連合では、ユーザは、重大な事象を居住する加盟国の所轄官庁にも報告してください。

説明書では、「患者」とはリフトに乗る個人、「介助者」は MAXI MOVE を操作する個人を指します。本説明書に記載されている介助技術は、患者にスリングを装着し、リクライニング姿勢から患者を持ち上げるための技術であり、患者がベッドや床などあらゆる場所にかかわらず使用することができます。

同様に、患者を椅子から持ち上げる際は、患者を車椅子やベッド上の端座位から持ち上げる同じ介助技術を利用します。

**注記:** 患者をサポートするために介助者が2人必要かどうかは、各事例ごとに判断する必要があります。

本説明書では、ダイナミックポジショニングシステム (DPS) に使用されているクリップスリングと、ループスプレッダーバー用のループスリングの両方が具体的に示されています。DPS 用に記載されている利用方法と技術は、電動式 DPS にも適用することができます。

## 本取扱説明書で使用する定義

### 警告:

意味: これらの使用方法や注意事項をよく理解し、かつ従わなければ、使用者自身および利用者の怪我の原因となることがあります。

### 注意:

意味: これらの注意事項に従わなければ、本製品の不具合の原因になることがあります。

### 注記:

意味: これは、本製品の正しい使用に関する重要な情報です。

## 製造元情報

ArjoHuntleigh AB  
Hans Michelsensgatan 10  
211 20 Malmö  
SWEDEN (スウェーデン)

## 使用目的

**警告:** 不適切な部品の使用に起因する怪我を避けるため、Arjo が供給する機器および他の周辺機器には、Arjo 指定の部品のみを使用してください。承認を受けずに行った Arjo 機器の改造は、安全性を損なう恐れがあります。Arjo は、その機器に対して承認を受けずに行なわれた変更の結果生じた事故、インシデントまたは製品不具合など一切の責任を負わないものとします。

MAXI MOVE は、着脱可能なスプレッダーバーを装備した移動式の床走行リフトです。

Maxi Move は、以下のいずれかに該当する患者 / 利用者がいる病院、長期ケア、介護施設、および個人宅を含む在宅ケア環境で、介助者をサポートすることを目的とした高品質な製品シリーズに含まれる製品のひとつです。

- 車椅子に座った患者
- 日常生活において介助が必要な患者
- 介助者のサポートなしで立位を取ることができず、自分の体重を全く支えられない患者
- 多くの場合介助を必要とする患者

あるいは以下の患者

- 不動状態
- ほとんどまたは完全に寝たきりの状態
- 拘縮や関節可動域が少ない
- 介助者が必ず必要とする

# 一般情報

MAXI MOVE は、必ず研修を受けた介助者が、本取扱説明書に記載されている注意事項に従って取り扱わなくてはなりません。

MAXI MOVE は Arjo スリングと併用してください。Arjo が提供する MAXI MOVE 用のスリングやストレッチャーのみを使用して下さい。

超低床式キャスター仕様の MAXI MOVE は、カーペットでの使用を想定していません。

## 条件

- 本製品は、当社が推奨する「取扱説明書」および「保守メンテナンス計画」に従って管理、点検及びメンテナンスしてください。
- 本製品は、「保守メンテナンス計画」の規定に沿ったのみ最低要件を満たすものとします。
- 本製品のサービスおよび製品の点検は、Arjo の要件に従い、お客様が本製品を最初に使用する時から開始してください。
- 本製品は、Arjo が意図した目的のみに使用し、かつ規定の範囲内で操作してください。Arjo の指定する交換部品のみを使用してください。

## 想定製品寿命

- Arjo リフトおよびそのアクセサリの想定製品寿命は、以下の条件遵守を前提として、製造日から10年です。
- 布製スリングと布製ストレッチャースリングの耐用期間は購入月から約2年です。
- この耐用期間は、スリングとストレッチャースリングが「Arjo スリングに関する情報」文書、「取扱説明書」および「予防メンテナンス計画」に従って洗浄、保守および点検されている場合に限り適用されます。
- バッテリー、ヒューズ、ランプ、ジェルクッション、フィルター、シールキット、座部インサート、マットレス、安全ベルト、クッション付き用カバー、ストラップおよびコードなどの他の消耗品の耐用期間は、それぞれの製品やアクセサリの管理と使用量により異なります。

消耗品は、「取扱説明書」および「予防メンテナンス計画」に従って保守・点検を行ってください。

## 患者の移乗に必要な介助者数に関するポリシー

Arjo のパッシブとアクティブタイプのリフトは、1人の介助者で安全に患者移乗を行えるように設計されています。抵抗する患者や肥満、拘縮などを伴う患者の場合、2人の職員による患者移乗が適切な場合もあります。作業手順、利用者数に基づく仕事量、環境、能力、および職員の熟練度・技能水準に基づいて、1人または2人の職員による患者移乗のいずれが適切かを判断することは、各施設または医療専門家の責任です。

## 記号





一般	記号の説明
	この記号には、(製造日を示す) 日付とメーカーの住所が付いています。
	この記号は、製品が欧州医療機器規則に準拠していることを示します。
	欧州共同体統一法への適合を示す CE マーキング。数字は認証機関の管理番号です。
	計量マーク (指令 2014/31/EU への準拠を示す) (NAWI) - 2016 年 4 月 20 日以降に製造されたスケール用。 (クラス III 安全性のみ) yy = 年、XXXX = 認証機関番号
	本製品が EU 医療機器規制 2017/745 に準拠した機器であることを示します。
	この記号は、TÜV SÜD を通じて NRTL 認証取得したことを証明しています。
	この記号は、TÜV SÜD を通じて認証取得したことを証明しています。
	この記号にはメーカーのカatalog番号が付いています。
	この記号にはメーカーの製造番号が付いています。
	電気・電子機器廃棄物 (WEEE) — 一般的な家庭ゴミまたは商業ゴミと一緒に本製品を廃棄しないでください。
	これらの記号については取扱説明書を参照してください。
	この記号は BF 型装着部を示します。
	この記号は、挟まれ事故の危険性があることを示します。
	この記号はスケールを表します。
	この記号は、本スケールが非自動はかり、精度等級 3 であることを示します。
<b>本製品の最大安全耐荷重を表します。</b>	安全耐荷重は、安全なリフト操作のための最大負荷重量を意味しています。
	安全耐荷重を含む機器の最大総質量。
<b>バッテリー充電器関連</b>	
壁掛け式バッテリー充電器 — 取扱説明書 001-24257-** を参照してください。	

図 1



# 安全の手順

MAXI MOVE を使用する前に、図 3 および他の挿絵に示した様々な部品と制御装置をよく覚えてください。次に、MAXI MOVE を使用する前に、本取扱説明書を最後までお読みください。本取扱説明書の内容は、機器の適切な操作とメンテナンスに重要であり、製品を保護する上で役に立ち、ご満足いただける形で製品をご利用いただけます。本書には安全に関する重要な情報が含まれていますので、怪我を予防するために、よく読んで理解してください。本取扱説明書の内容について、ご質問やご不明な点がありましたら、最寄の Arjo 代理店にご連絡ください。

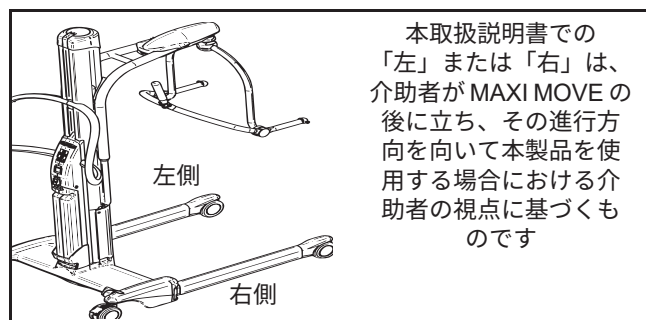


図 2

本製品は、トラブルが少なく使用できるように設計製造されていますが、この製品で使われている部品や付属品は、通常の使用で摩耗します。

**注意：**この製品の部品は、本リフトの安全な操作を行う上で重要な役割を果たしますので定期的に検査および点検整備を必要とし、必要に応じて交換してください。

「MAXI MOVE のケア」のセクションも参照してください。

**注意：**MAXI MOVE 用に特別にデザインされた Arjo 製スリングおよびストレッチャースリングのみをご使用ください。

**警告：**MAXI MOVE を使用する前に、とりわけ患者移乗では患者の体に相当な圧力がかかることを考慮して、資格のある医療専門家が、患者の移乗適合性に関する臨床的評価を必ず行ってください。移乗適合性の低い患者を移乗すると、患者の健康状態が悪化する可能性があります。

**警告：**痙攣患者を持ち上げることは可能ですが、落下と怪我を防止するため、細心の注意を払って患者の脚部を支えてください。

**警告：**患者の怪我を避けるため、MAXI MOVE に、その取付具/アクセサリに記載されている最大の安全耐荷重を超える荷重をかけないでください。床走行リフト、スプレッダーバーおよび身体の支持具（すなわちスリング）の各最大安全耐荷重が異なる場合には、その中で最低の許容荷重を本製品の最大安全耐荷重としてください。

ストレッチャーフレーム、スプレッダーバーなどのオプションアタッチメントを手で持ち上げて交換する際は、怪我をしないように注意してください。

リフト全体を手で持ち上げるようなことはしないでください。

**注意：**MAXI MOVE およびそのアクセサリは高い水準で製造されていますが、高湿度または濡れた場所に放置しないでください。

如何なる状況（シャワー時など）においても、MAXI MOVE やアクセサリ（スリングまたは Arjo が濡れた環境で使用できると承認した設備機器は除く）に決して水がかからないよう十分に注意してください。

**警告：**患者を持ち上げる前に、MAXI MOVE の様々な操作方法と機能に慣れて、また理解し、点検手順に関連するすべての措置を取るようにお勧めします。

様々な付属品がオプションとして Maxi Move に用意されていますが、それらの全てが取扱説明書に記載されているわけではありません。MAXI MOVE が、ストレッチャーなどの代替 / オプションのアクセサリを装備している場合は、本リフトを操作する前に、本取扱説明書だけでなく関連する他の操作説明書も必ず参照してください。

本製品は、介助者が全操作を行うように意図されています。本製品に関連するいかなる機能も、患者に操作させないでください。特定の患者には、介助者が 2 人必要なことがあります。

## 在宅環境に関する注意事項

**警告：**MAXI MOVE は、子供が操作することを意図していません。重篤な怪我を負う可能性があります。

**注記：**MAXI MOVE が動物に暴露された場合は、厳格な洗浄・消毒処置を行う必要があります。本製品の内側に入り込んだペットの毛は本製品の性能を低下させる可能性があります。

**警告：**本製品には、子供が飲み込んだり、吸引したりすると、身体に深刻な危険を及ぼす小さな部品が含まれています。



## この取扱説明書で参照する部品

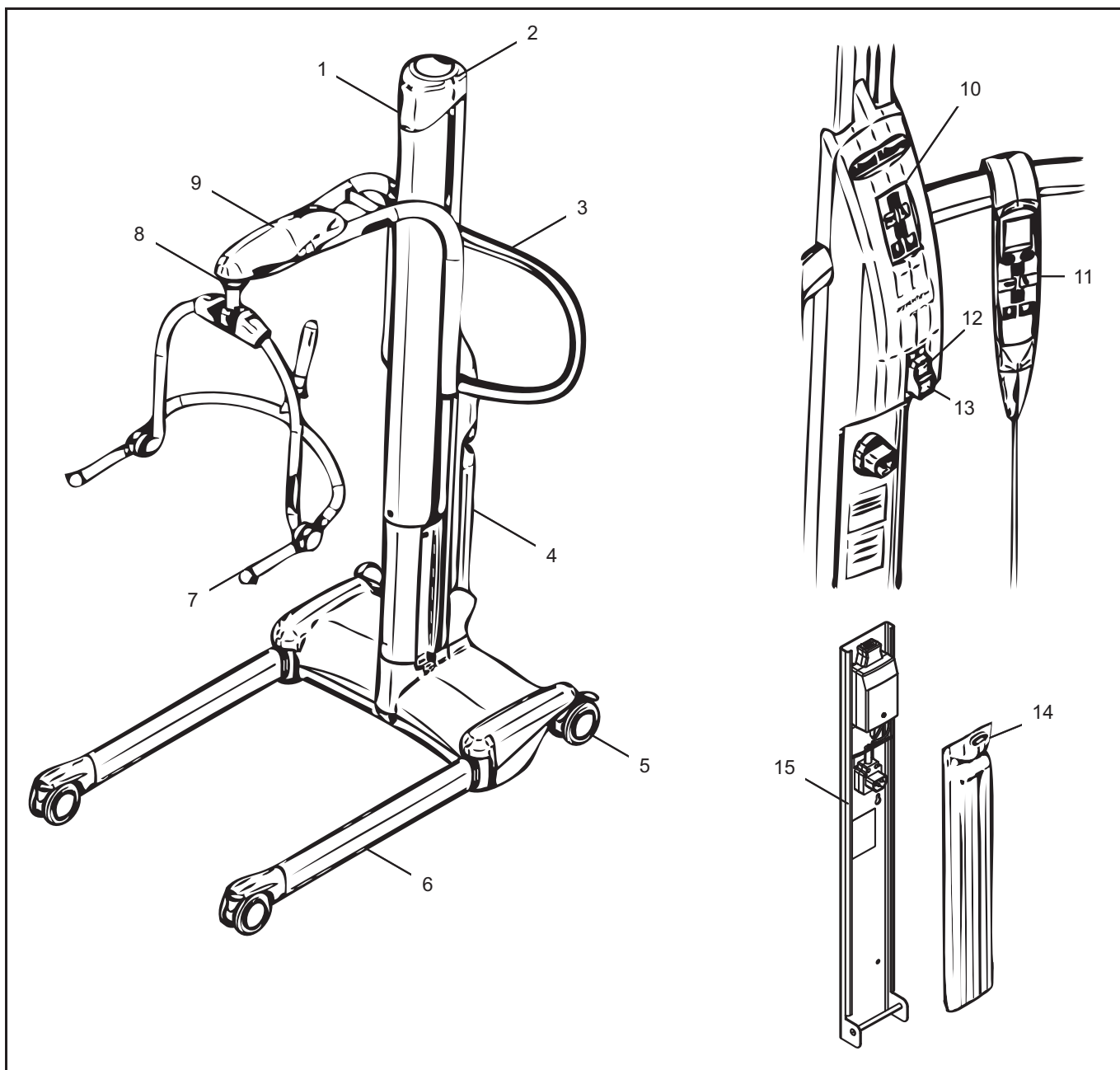


図 3

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 1) マスト                             | 12) 停止ボタン                              |
| 2) マスト上部カバー                        | 13) 電源ボタン                              |
| 3) 操作ハンドル                          | 14) バッテリー解除ボタン                         |
| 4) バッテリー                           | 15) バッテリー充電器                           |
| 5) ブレーキ付きキャスター                     | 16) 2点ループスプレッダーバー (含まれている場合) *         |
| 6) 調節可能なシャーシーレッグ                   | 17) ループ M サイズ コンビ (含まれている場合) *         |
| 7) M サイズ DPS スプレッダーバー (含まれている場合) * | 18) 4点ループスプレッダーバー (含まれている場合) *         |
| 8) 「ロック・アンド・ロード」スプレッダーバーのキャリアシステム  | 19) DPS スプレッダーバー S サイズ (含まれている場合) *    |
| 9) ジブ                              | 20) 電動 M サイズ DPS スプレッダーバー (含まれている場合) * |
| 10) コントロールパネル                      | 21) 電動 L サイズ DPS スプレッダーバー (含まれている場合) * |
| 11) コントロール手元スイッチ                   | 22) ストレッチャーフレーム (含まれている場合) *           |

\* 詳細は 10、11 ページを参照してください。

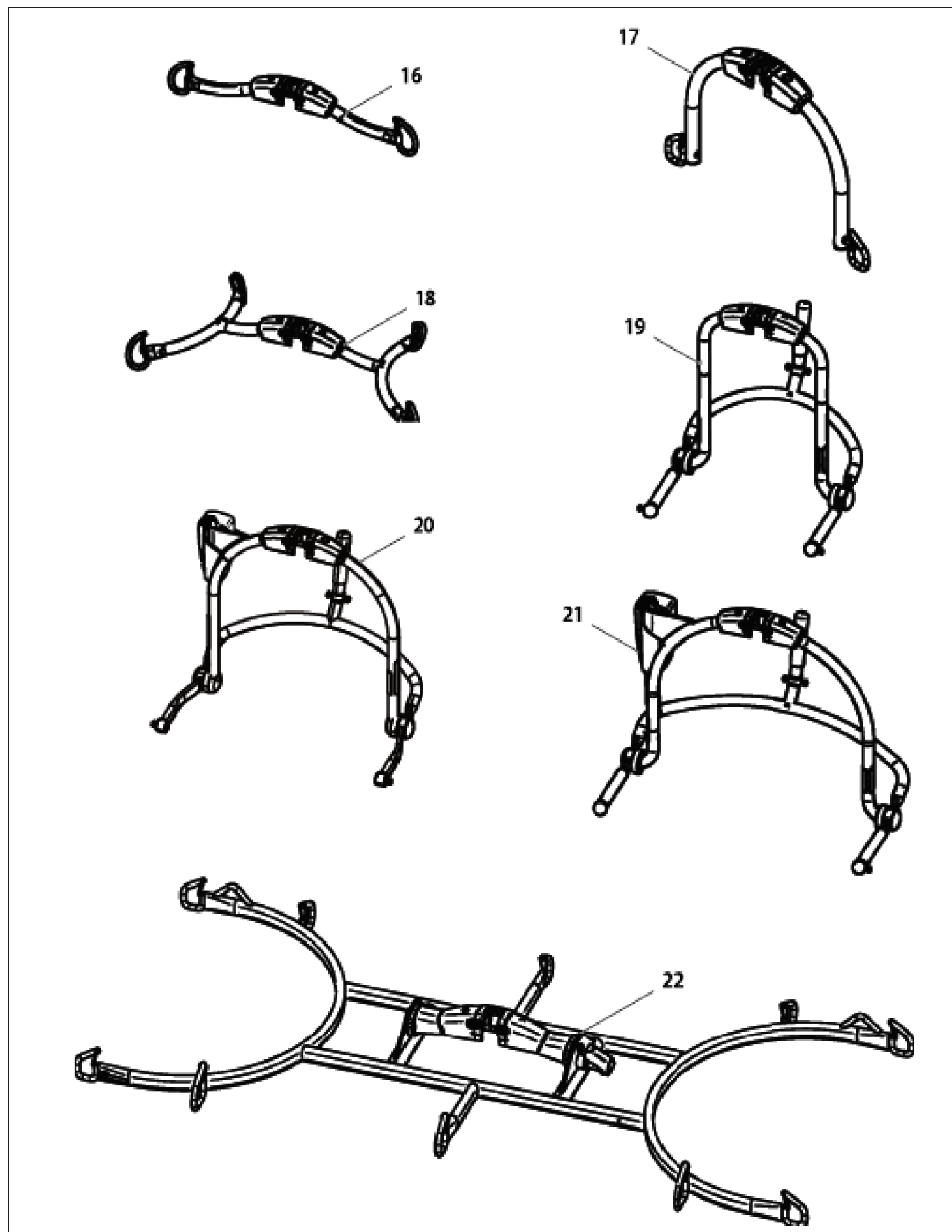


図 4

名前		使用目的
7	M サイズ DPS スプレッダーバー	Arjo クリップスリングを使用して患者様を座位から横臥位に持ち上げるのに使用する 4 点式キャリーバー。Arjo T-Bar 取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。
16	2 点ループスプレッダーバー	Arjo ループスリングを使用したさまざまな位置からの移送に使用される 2 点式キャリーバー。Arjo T-Bar 取り付けシステムに取り付けることを前提として設計されています。
17	ループ M サイズ コンビ (700-19303)	
18	4 点ループスプレッダーバー (700-19331)	Arjo ループスリングを使用したさまざまな位置からの移送に使用される 4 点式キャリーバー。Arjo T-Bar 取り付けシステムに取り付けることを前提として設計されています。
19	DPS スプレッダーバー S サイズ	Arjo クリップスリングを使用して患者様を座位から横臥位に持ち上げるのに使用する 4 点式キャリーバー。Arjo T-Bar 取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。
20	中型電動式 DPS スプレッダーバー (700.19311)	
21	大型電動式 DPS スプレッダーバー (700.19316)	
22	ストレッチャーフレーム	Maxi Move 用の折りたたみ式ストレッチャーフレームは、ソフトストレッチャー、ストラップストレッチャー、またはスクープストレッチャーと組み合わせて仰臥位での移乗に使用することを目的としています

図 5

## スリング

MAXI MOVE スリングの標準タイプは 227 kg (500 lb) までの重量を支持することができ、小児用スプレッダーバーは 125 kg (275 lb) までの重量を支持することができます。すべてのスリングは、下記の通りの異なる色の縁ストラップまたは取付具ストラップ色によってサイズ別に色分けされています。

### 小児用：

- ・ ティールまたはグレー -XXS サイズ - XXS
- ・ 茶または白 - XS サイズ - XS
- ・ 赤色 - S

### 標準タイプ：

- ・ 黄色 - M
- ・ 緑色 - L サイズ - L
- ・ 紫色 - LL
- ・ 青 - XL
- ・ テラコッタ - XXL

常に使用スリング上のラベルを参照して、スリングの安全耐荷重 (SWL) を必ず確認してください。

ラベルはスプレッダーバー上に貼付されていて、すぐに参照できるサイズ・カラーコードが付いています（「ラベル」セクションを参照）。

特殊目的のスリング製品群が付属品としてご利用いただけます。これらのスリングまたは特殊サイズのスリングをお求めの際は、最寄りの Arjo 代理店にお問い合わせください。

スリングの互換性、使用法および取り付け方に関するより詳細な情報は、「スリング操作および製品取扱説明書」(MAX81785M-INT) を参照してください。

**警告：**落下の危険性と怪我を防止するため MAXI MOVE 用に設計された Arjo が供給するスリングとストレッチャーのみを使用してください。スリングの図 (図 5 を参照) は、ご入手いただける様々な Arjo スリングや布製担架を選択する上で有効です。

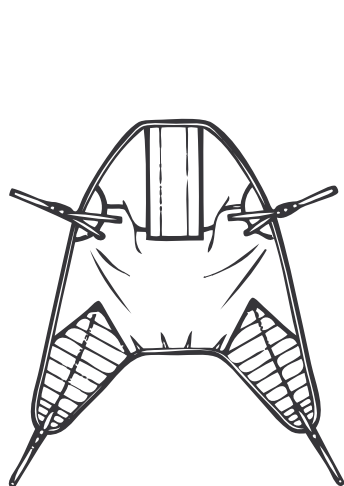
Arjo Flites (使い捨てスリング) がこの MAXI MOVE と使用される場合、使用前に、本説明書だけでなく、別個の Arjo Flites 操作説明書 (各スリングの取扱説明書を参照) も必ず参照してください。

**警告：**ヘッドレスト付き Arjo スリングは、その頭部セクションにポケットが 2 つ付いています。怪我を避けるため、使用中はこれらポケットに補強用プラスチックインサートをはめ込んでください。スリングを使用する前に必ずこれらの補強用インサートがスリングポケットの内部に配置するようにしてください。

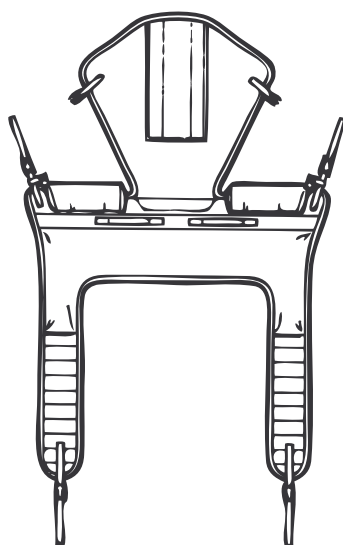
**警告：**Arjo は、スリングの使用に関連する巻き込み事故の危険性があることを警告します。そのような事故を防止するため、必要な予防措置を講じる必要があります。

# 製品説明 / 機能

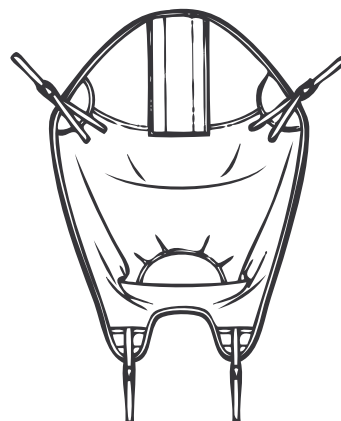
MAXI MOVE と併用できる Arjo 標準スリング



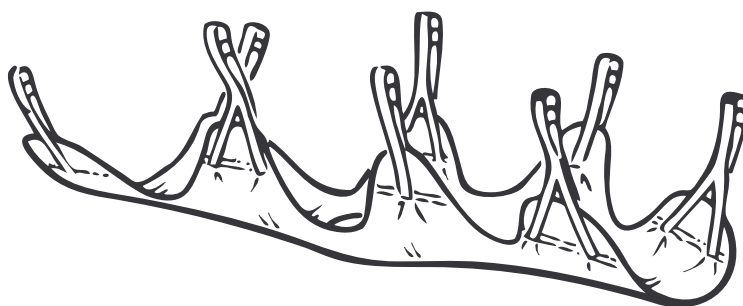
4 点式パット付きスリング



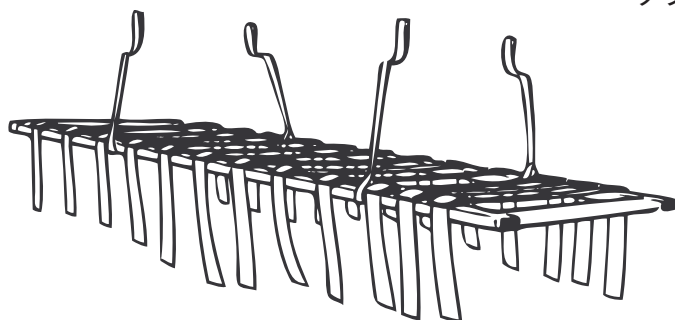
4 点式トイレ用スリング



4 点式脚切断患者用スリング

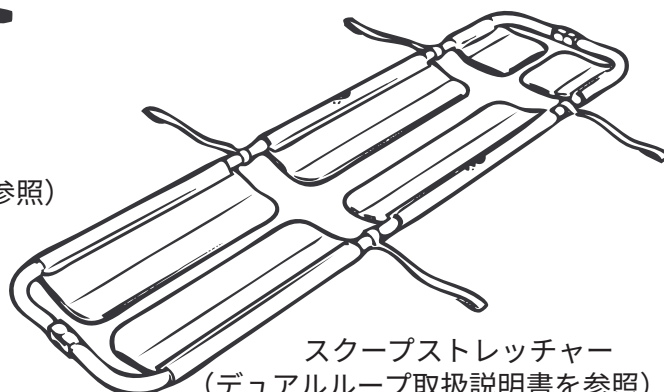


ソフトストレッチャー



ストラップストレッチャー  
(Arjoストラップストレッチャー取扱説明書を参照)

注記：他のスリングモデルもご利用いただけます。  
詳しくは、最寄の Arjo 代理店にお問い合わせください。



スクープストレッチャー  
(デュアルループ取扱説明書を参照)

## 操作方法と機能

### コントロール手元スイッチ

(図 6 を参照) ジブの昇降、シャーシー脚部の開閉、または電動 DPS スプレッダーバーの操作を行うには、手元スイッチ上の適切なボタンを押します。各ボタンには、参照しやすい矢印付きアイコンが印刷されています。

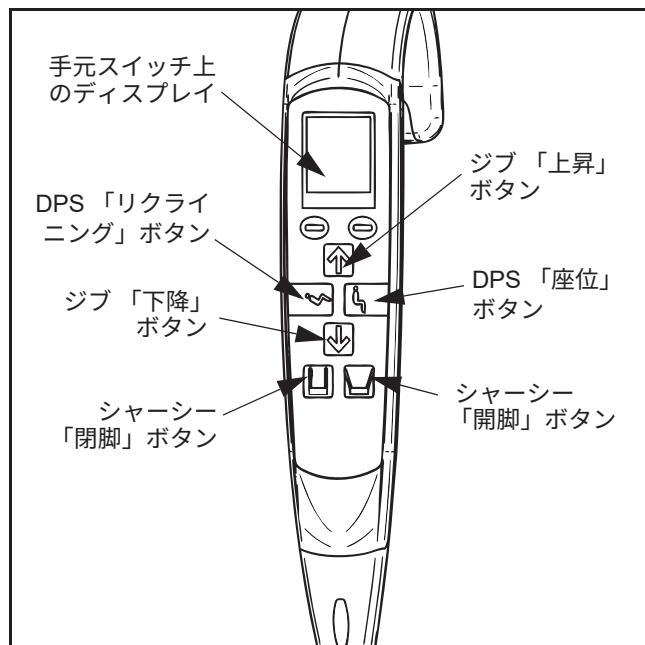


図 7

任意の機能中にボタンから手を離すと、電動動作はただちに止まります。手元スイッチを使用していないときは、後ですぐに使えるように、マスト後部の操作ハンドルに掛けておくことができます。

### コントロールパネル

(図 7 参照) MAXI MOVE はマストに取り付けられたコントロールパネルも利用することもできます。これは制御用手元スイッチと併用できるため、電動動作をリフトのマストと遠隔操作（手元スイッチ）の両方で制御できるようになります。手元スイッチ同様、クイックリファレンス用の矢印付きアイコンが各ボタン上にプリントされています。

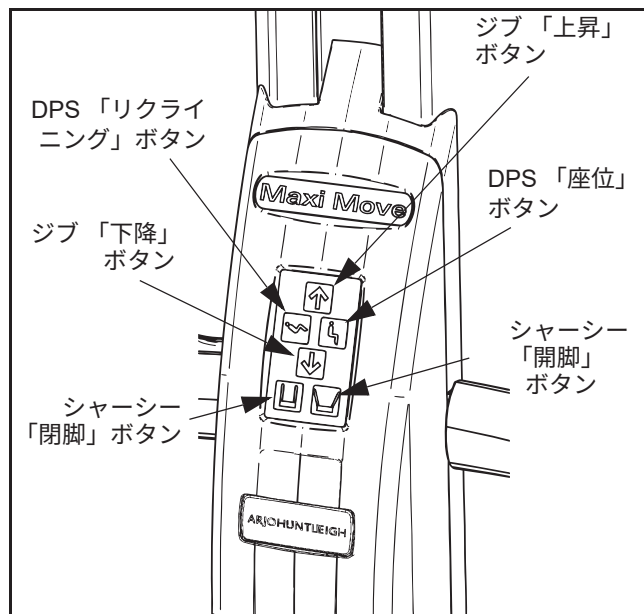


図 8

### 停止ボタン（赤）

(図 8 を参照) 緊急時にすべての電動動作をただちに停止しなくてはならない場合（手元スイッチのボタンまたはコントロールパネルのボタンから指を離す方法以外に）、このコントロールパネル上にある電源停止ボタンを押します。

この赤い停止ボタンを使用された場合、本製品を再び使用する際は緑の電源 ON ボタンを押してください。ボタン操作。

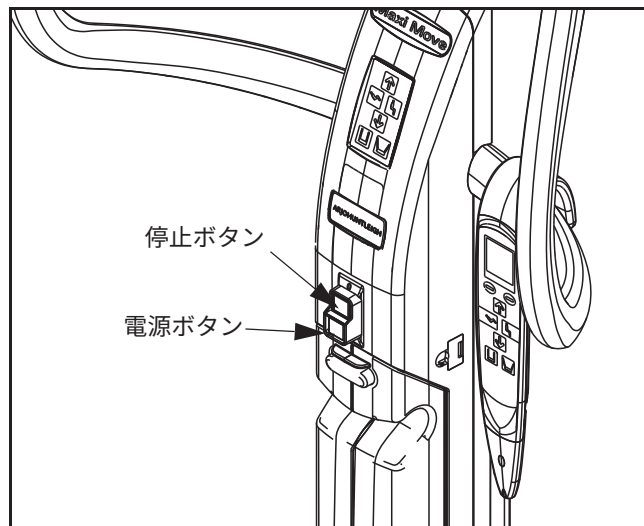


図 9

### 電源ボタン（緑）

(図 8 を参照) その電源停止ボタンの隣にあるこのボタンは、本製品の電源を入れるために使用します。



# 製品説明 / 機能

## 緊急降下機能

バッテリー切れや他の電氣的なトラブルなど電力が完全に喪失した場合でも、安全機能の一つとしてジブを下降させることが可能です。最初に、マスト後部にある赤色の緊急降下レバーを上に戻します（図 9 を参照）。

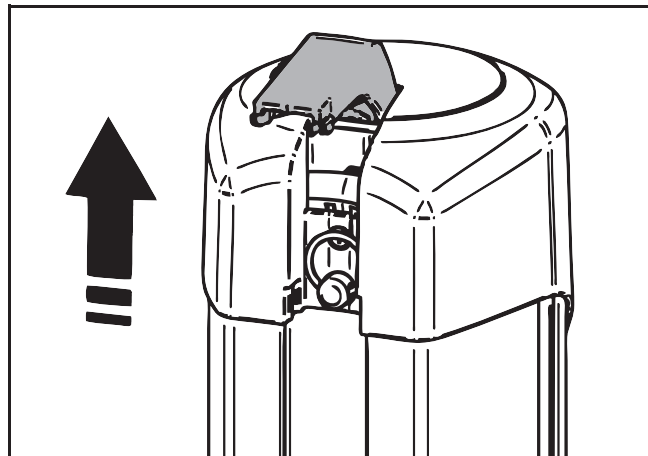


図 10

次に、赤色の緊急降下レバーの真下にあるロックピンをその位置から抜き取ります（図 10 を参照）。

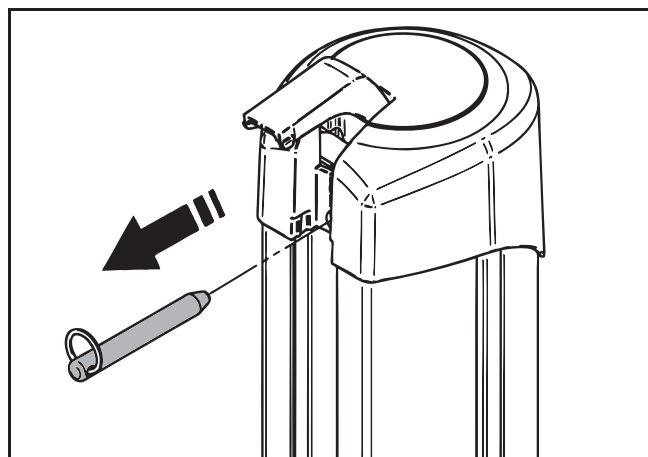


図 11

最後に、そのレバーを時計回りに回します（図 11 を参照）。そのレバーを時計回りに 1 回転することで、ジブを 10 mm 下降させることができます。

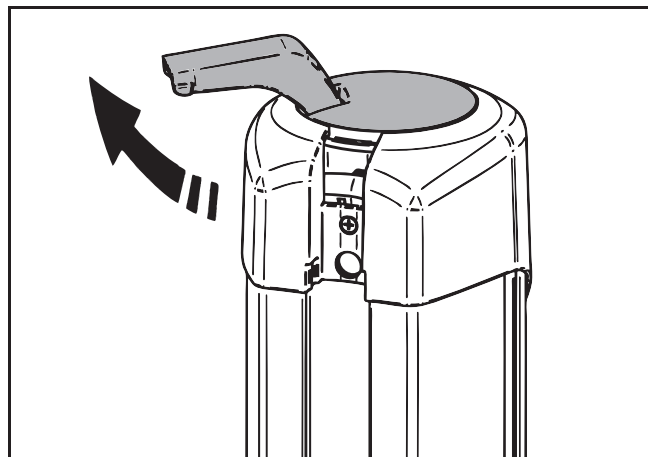


図 12

**警告：介助者の落下危険と怪我を防止するため、マストが高い位置で、緊急下降機能を使用する場合は、適切かつ安全な措置を取って上部カバーへアクセスしてください。**

緊急降下機能を使用しなければならない事案があった場合は、ただちに本製品の使用を停止し、最寄の Arjo 事業所または代理店にご連絡ください。

## 自動カットアウト

これは、使用者による制御機能ではなく、本製品の電子部品に組み込まれている機能です。

本製品を不注意に最大安全耐荷重よりも大きな荷重で上下昇降を行った場合、過負荷状態となり、自動的にカットアウト機能が作動し、上昇動作を制御します。これにより本リフトの動作は自動的に停止します。

この状態が起こった場合、手元スイッチ上またはコントロールパネル上のジブ「UP」ボタンを押して解除します。その際、本製品を継続して無理に上下昇降させないでください。MAXI MOVE は必ずその安全耐荷重内で使用してください。

## 挟み込み防止機能

これは、使用者による制御機能ではなく、本製品の電子部品に組み込まれている機能です。

スプレッダーバーやストレッチャーバーを患者や他の障害物の上に下降させないように細心の注意を払ってください。この状態が起こると、本リフトの「挟み込み防止」機能が作動し昇降モーターを停止させ、降下動作は停止します。その場合、ただちに「DOWN」ボタンから指を離し、「UP」ボタンを押して、ジブを高い位置まで上昇させてください。次に障害物を取り除きます。

## バッテリーインジケータ

MAXI MOVE のバッテリーインジケータは手元スイッチのディスプレイに表示されています。操作手順については、「バッテリーの充電方法」セクションを参照してください。

## スリープモード

MAXI MOVE には節電機能があり、一定時間使用していないと本リフトは「スリープモード」に自動的に移行します。本リフトは 2 段階でスリープモードに移行します：

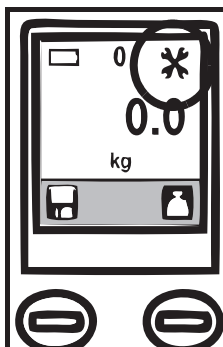
- 1) 本リフトは、2 分間使用していないと（手元スイッチまたはコントロールパネルのいずれかのボタンが押されない場合）、手元スイッチがスリープモードに入ります。この機能は、手元スイッチまたはコントロールパネル上の任意のボタンを押すことによってスリープモードを解除することが出来ます。スリープモードからの再起動には 3 秒かかります。
- 2) 本リフトは、6 分間使用されないと、製品全体がスリープモードに移行し、手元スイッチまたはコントロールパネル上の任意のボタンを押すと再起動します。スリープモードからの再起動には 3 秒かかります。

## 使用ログ

使用ログは手元スイッチ上で、本リフトのマストが上下昇降された累積時間（時間単位）が表示可能です。

計量前には、ディスプレイの最上部に前回 0 時間使用という意味で「0.0」が表示されます（体重測定値を表す大きな数字のすぐ上）このログは累積で 6 分間使用する毎に 0.1 ずつ増加します。このカウンターはマストの動作中だけログに記録されます。よって本製品に電源を入れた時、電動 PDPS を使用している時、またシャーシー脚部の開閉している時のみはログに影響しません。

保守・点検記号は、本製品の年間メンテナンス要件のリマインダー機能を果たし、使用ログのカウンターの累積時間が 175 時間に達すると手元スイッチのディスプレイに表示されますこれは、リフトの平均的な使用時間です。このメンテナンス記号は使用時間に基づいて表示されるため、実際の 1 年とはずれる可能性があります。



このメンテナンス記号が表示されても安全に使用できますが、出来るだけ早く本製品の保守・点検を行ってください。

有資格担当者は年次点検を完了した時点で、表示を「0.0」にリセットします。これは次の点検時期を監視するために必要です。

## 電動シャーシー脚部

（図 12 を参照）シャーシ脚部を開いて広げるには、手元スイッチまたはコントロールパネルのいずれかの「開脚」ボタンを押します。このボタンから手を離すと動作は停止し、シャーシ脚部はその位置に停止します。患者の移乗は必ずシャーシ脚部が閉じた状態で行ってください。

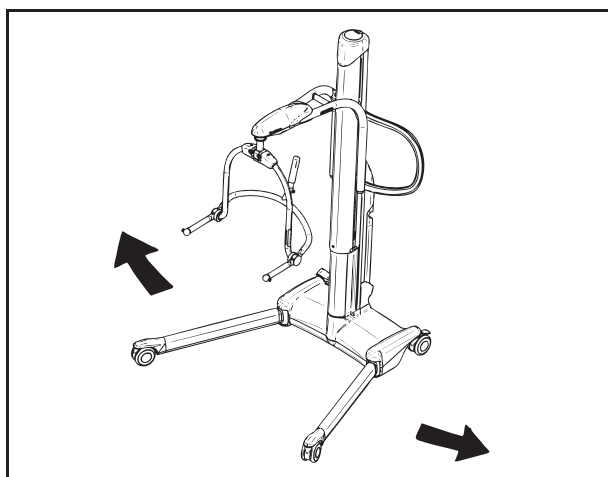


図 13

## キャスターブレーキ

（図 13）シャーシリアキャスターにはブレーキが付いており、足で簡単に操作でき、MAXI MOVE を正確な位置に固定します。

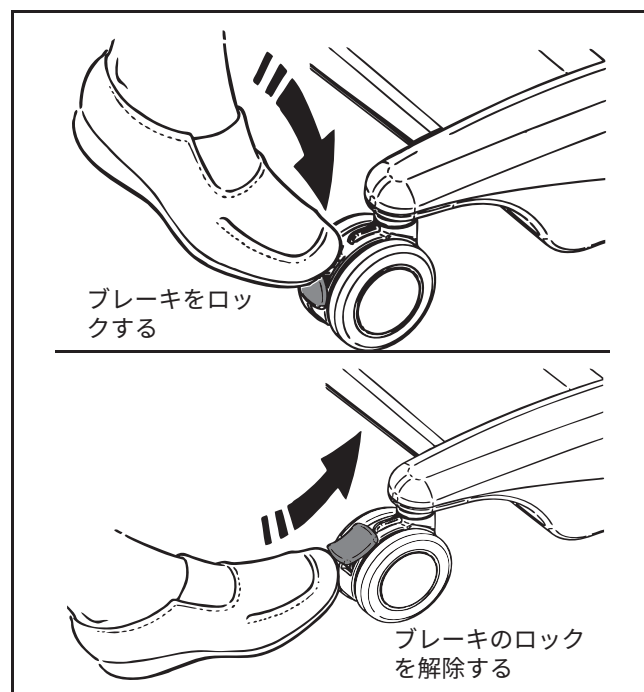


図 14

## ジブとスプレッダーバー/ストレッチャーフレーム

（図 3 を参照）MAXI MOVE はループ / DPS スプレッダーバー、ストレッチャーフレームなどの複数の付属装置の使用を可能にするクイックコネクト機能を装備しています。付属装置の取り付けまたは変更に関する注意事項については「MAXI MOVE の使用方法」セクションを参照してください。



# Maxi Move の使用方法

## 患者を移乗する前に

使用前に同梱のバッテリーがフル充電されていることを確認してください（バッテリーの充電方法については本説明書の「バッテリー充電」セクションを参照）。バッテリーの充電が終了したら、充電器から取り外し、MAXI MOVE に取り付けてください。まず、バッテリー底部の凹部分をバッテリースロット底部の凸部分と合わせ、バッテリーのラッチを本体に固定します。電気接続は自動的に行われます。

緑の電源ボタンコントロールパネルの下にある緑色の電源ボタンが押し込んでください（図 8 を参照）。

Maxi Move で使用するスリングは利用者のサイズと用途に合ったスリングを豊富な種類から選んでください。

介助者は、次に何が起こるかを逐次患者に知らせ、適切なサイズのスリングを事前に準備しておく必要があります。なるべく患者の正面から接近するようにしてください。

**注記：**患者がスプレッダーバーやジブにつかまらないようにしてください。

**警告：**患者と周りの人々の安全性を確保し、怪我を避けるため、Maxi Move のマストを上昇させる前に マスト上に十分な空間があることを必ず確認してください。ドアのフレーム近くで患者の持ち上げを行う際は細心の注意を払ってください。

**警告：**患者と周りの人々の安全性を確保し、怪我を避けるため、Maxi Move のマストを上昇させる前に マスト上に十分な空間があることを必ず確認してください。戸口を通過する際には細心の注意を払ってください。

必要であれば、シャーシー脚部を開いて椅子や車いすにアプローチしてください。

## 電動「V」シャーシー脚部

シャーシ脚部が必要な幅になるまで手元スイッチまたはコントロールパネル上の「開脚」ボタンを押してください。脚部を閉じるには、「閉脚」ボタンを押してください。開閉動作はボタンから指を離すと停止します。

電動シャーシの脚部を開閉する際は、動作中のシャーシ脚部の妨げになる障害物がないように注意を払ってください。たとえば椅子の周りや戸口で脚部を操作する際は、特別な注意を払ってください。本リフトの移動は、シャーシ脚部が閉じた状態でのみ行ってください。

## MAXI MOVE 「ロックアンドロード」システム

（図 14 参照）

スプレッダーバーやストレッチャーフレームなどのスプレッダーバーを取り付けまたは取り換えが必要な場合は、以下の手順に従ってください：

**スプレッダーバーの外し方：**スプレッダーバーをしっかり掴み、ロックングクリップの親指パッドを押して T 型バーとの接続を解除します（図 15A を参照）。次にロックングクリップを押したままスプレッダーバーを上方に持ち上げて T 型バーから離し（図 15B および図 15C を参照）、次の使用に備えて保管します。

**取付具を取り付けるには：**必要なスプレッダーバーを選択し、ロックングクリップの親指パッドを手前に向けた状態で、スプレッダーバーの凹部を T 型バー軸にはめ込みます（図 15D を参照）スプレッダーバーが T 型バーに沿って下方に下がり、ロックングクリップが完全に接続したことを確認します。（図 15 参照）。

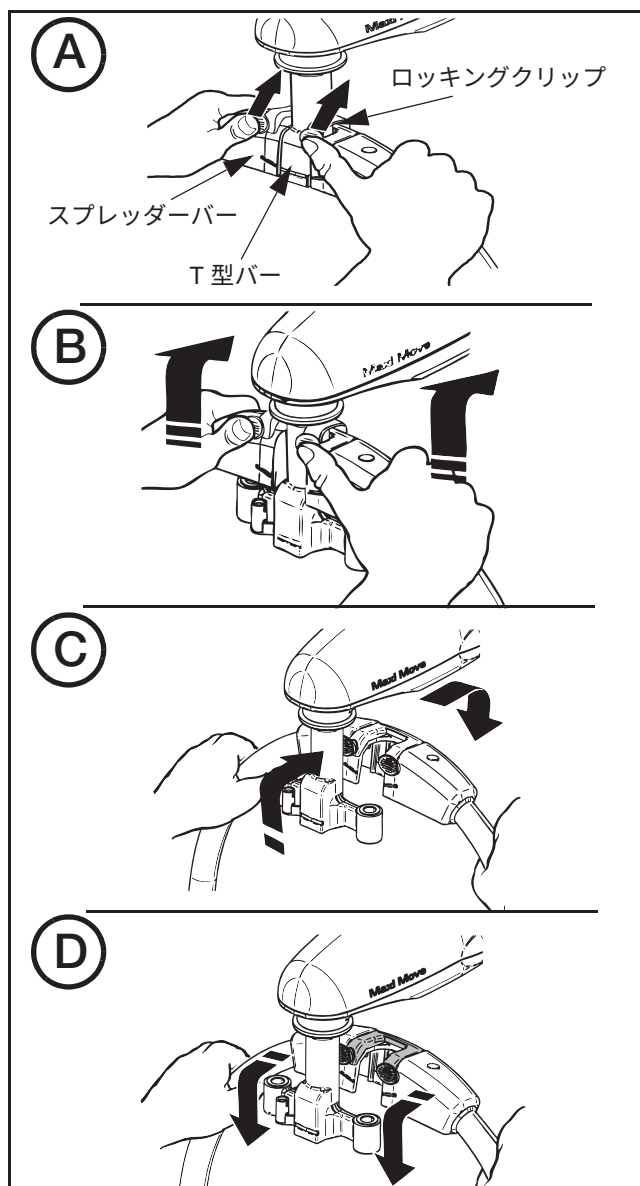


図 15

**警告：**スプレッダーバーをジブから取り外す際は、その全重量を支えるため、腰を痛めないように注意してください。

大型のスプレッダーバーの場合、その重量を安全に一人で支えることが困難と判断した場合は、その手順に複数の人員を配置するか、またはスプレッダーバーをベッドまたは椅子で支えて交換してください。

# Maxi Move の使用方法

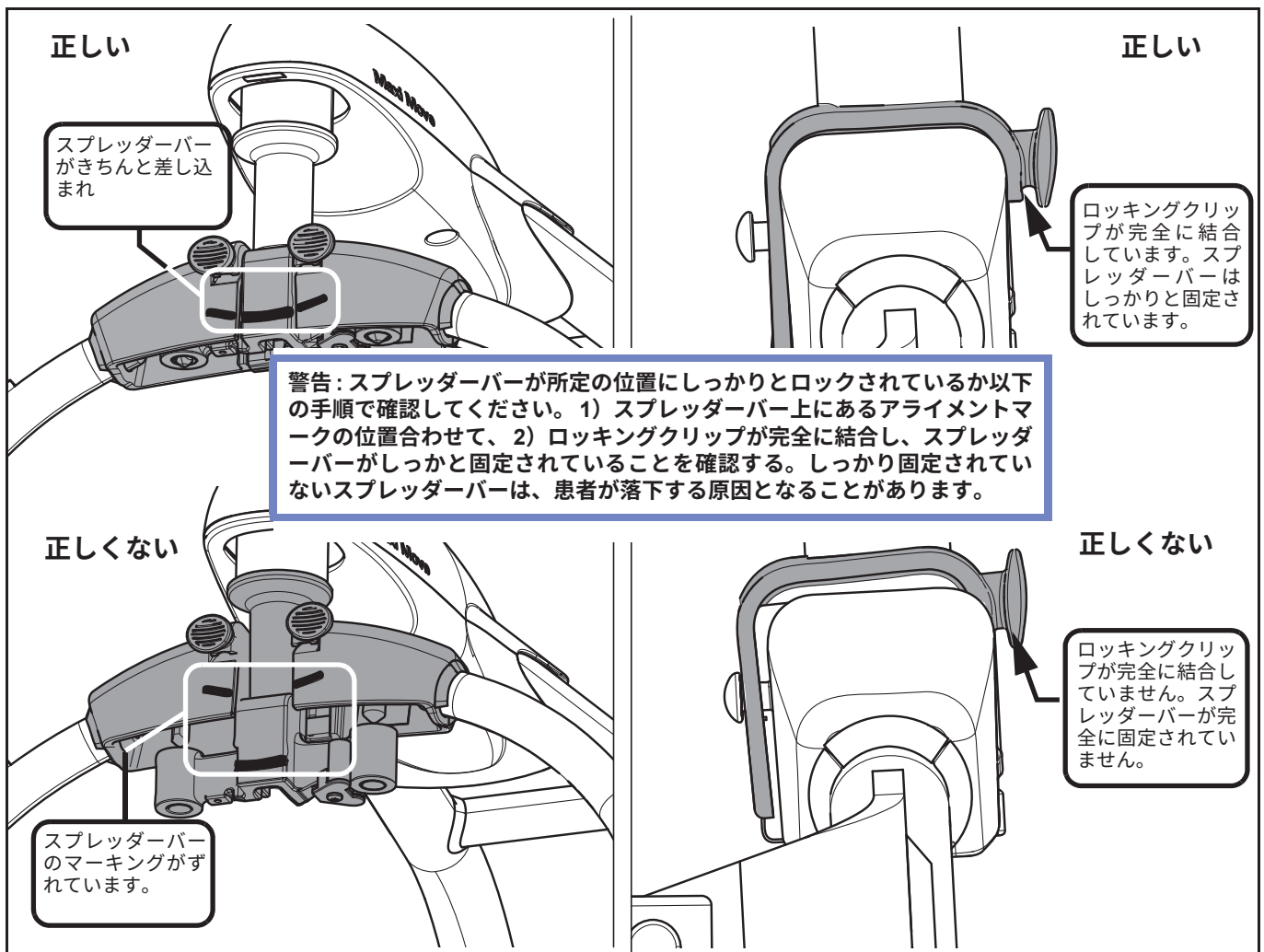


図 16

**警告：**スプレッダーバーがT型バーからはずれることを防止するため、スプレッダーバーを硬い表面部分（例えばベッド、床、椅子のアームレスト部分）上に下降させないでください。スプレッダーバーがきちんと取り付けられていない場合、使用中に本製品から完全脱落して、患者が落下する原因になることがあります。

## スプレッダーバーのテスト

スプレッダーバーがT型バーに安全に接続されていることを確認するには、ロックングクリップの親指パッドを押さずにスプレッダーバーを両手でしっかり保持し、上方向に持ち上げます（図 16 参照）。スプレッダーバーがT型バーからはずれた場合、Maxi Move を使用しないでください。最寄りの Arjo 代理店にお問い合わせください。

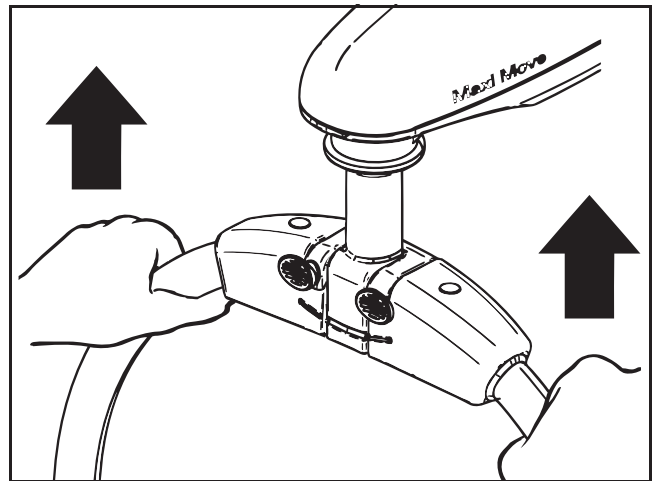


図 17

**警告：**スプレッダーバーが所定の位置にしっかりとロックされているか以下の手順で確認してください。1) スプレッダーバー上にあるアライメントマークの位置合わせて、2) ロックングクリップが完全に結合し、スプレッダーバーがしっかりと固定されていることを確認する。

# Maxi Move の使用方法

## DPS スプレッターバーの使用

### 椅子からの持ち上げ方法

スリングは、患者の脊椎底部を覆い、そのヘッドレスト部が患者後頭部にくるように患者に装着します。患者大腿部の下にある各脚部ストラップを、両大腿部からその内側に向けて引き出します（図 17 を参照）。

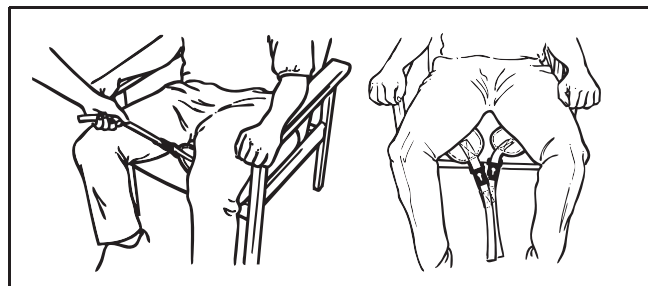


図 18

スプレッターバーのポジションハンドルが患者と同じ方向を向き、スプレッターバーの開放部を肩の高さか、脇の辺りに合わせます（図 18 を参照）。

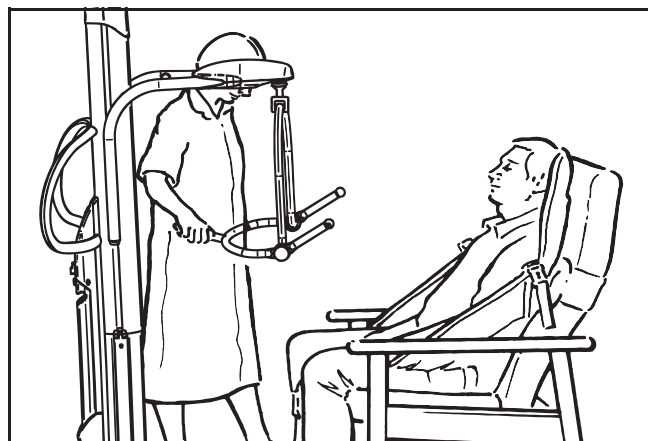


図 19

スリングのショルダークリップをスプレッターバーに取り付けられる位置にまで MAXI MOVE を近づけてください。必要に応じて、患者の足をシャーシの上に乗せてください。

**警告：** DPS スプレッターバーにスリングを取り付けて患者を持ち上げる際は、怪我を防止するために患者の手と腕を常時スリングの内側に入れてください。患者がスプレッターバーにつかまらないようにしてください。

MAXI MOVE を所定の位置に配置し、ショルダーストラップのクリップをスプレッターバー上のラグに取り付けます（図 19 を参照）

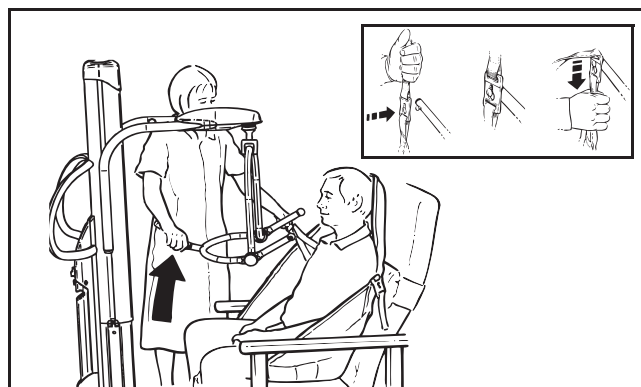


図 20

**注意：** シャーシ後部キャスターには、必要時に足で操作できるブレーキが付いています（図 13 を参照）。患者が持ち上げられる間に本リフトの重心に合わせて患者の姿勢が調節されるため、この段階ではシャーシのブレーキをかけないでください。

スプレッターバー上のポジションハンドルを押し下げ、脚部ストラップ取付クリップを取り付けます（図 20 を参照）

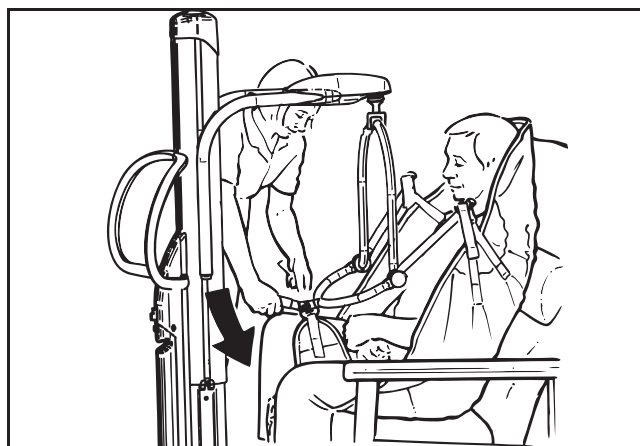


図 21

脚部クリップをそのままそれぞれのラグに取り付ける方法が推奨使用方法です（図 21 を参照）。

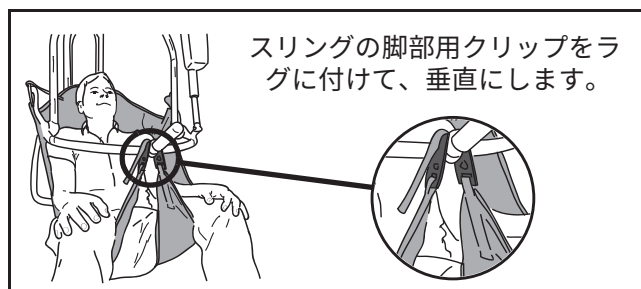


図 22

スリングの脚部用クリップをラグに付けて、垂直にします。

脚部クリップを蹴って外してしまう可能性がある場合は、脚部クリップを交差させて取付けてください。クリップが蹴り外されることを防止できます（図 22 を参照）。



図 23

必要があれば、スプレッダーバーが患者に降下しないように注意しながら、手元スイッチを使用してスプレッダーバーを患者の近くまで下降させます。不注意から患者にスプレッダーバーが押し付けられた場合、自動的に動作を止めるカットアウト機能が本体に内蔵されています。手元スイッチの「ジブ下降」ボタンを押し続けしないでください。

持ち上げ手順中または下降手順中に手元スイッチのボタンから指を離すと、電動動作はただちに停止します。

椅子から持ち上げる場合、脚部ストラップを先に取り付ける方法もあります。この方法は特に大腿部が大きな患者に向いています。その場合、スプレッダーバーのポジションハンドルを下げて脚部ストラップクリップを取り付けます。次にスプレッダーバーをお願いします。患者の肩の方向に傾斜し、ショルダークリップを取り付けます。

**注意：**スリングの取付クリップが昇降前と稼働中に適切な位置にあること、および患者の体重が徐々に持ち上がるにつれてスリングに適切な張力がかかっていることを必ずチェックしてください。

患者の移乗を行う前に、患者をほぼ通常の椅子の高さで介助者に面するように位置決めします。これは患者に自信と尊厳を与えます。ブレーキがかけられている場合は、患者を移乗する前にブレーキを解除することを忘れないでください。

手元スイッチを使用して患者を持ち上げ、移動に適した快適なリクライニング角度に調節します（図 23 を参照）。ヘッドレストが付いたスリングを使うと、介助者一人で介助ができ、リフトを使用することができます。

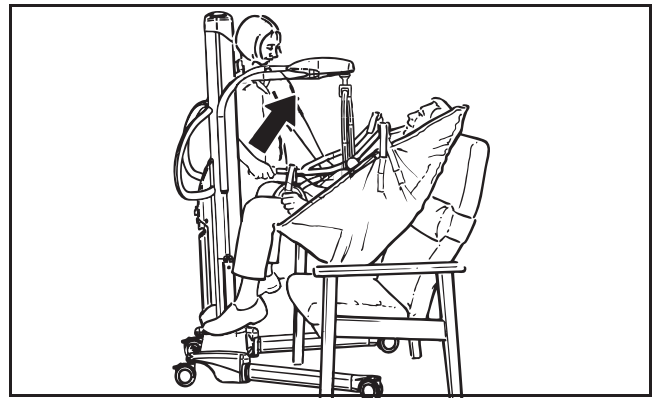


図 24

本リフトを移動して椅子から離します。患者が落ち着かない場合には、リクライニング角度を快適な角度に調整することができます。これでリフトを移動させることができます（図 24 を参照）。

**警告：**本リフトは、マスト、ジブ、スプレッダーバーまたは患者の体を直接押したり、引いて移動しないでください。本リフトを不安定にし転倒したり、怪我を引き起こす可能性があります。本リフトの移動には必ず操作ハンドルを使用してください。

**警告：**スプレッダーバーを下降させる際は、患者および介助者の怪我および MAXI MOVE の損傷を避けるため、患者および介助者の足が本リフトから十分に離れ、接触することがないことを確認してください。スリングの脚部分のクリップを取り外す場合は、患者の全体重がベッドに移ったことを確認し、ショルダー部分のクリップを取り外してから行ってください。

**警告：**衝撃を防ぐために、移乗中は常に患者または機器の周囲に十分な空間があることを確認してください。

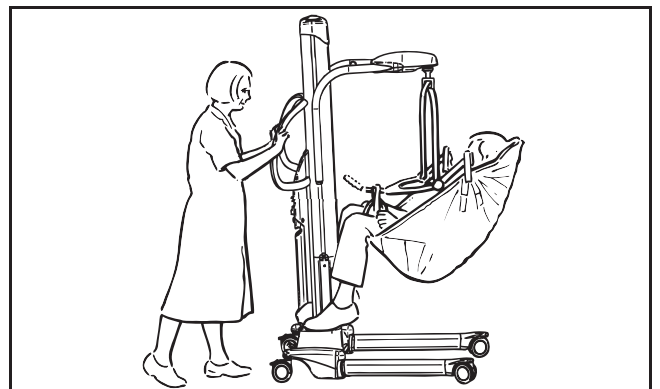


図 25

下降時は、患者に座位姿勢を取らせるようにポジションハンドルを下降させます。これは持ち上げ高さからくる緊張を緩和します。患者頭部を前方に倒す恐れがありますので急速に押し下げないように注意してください。



# Maxi Move の使用方法

## ベッドから持ち上げるには

患者をベッドからリフトする前に、MAXI MOVE シャーシ脚部が移動できるようにベッドの下に十分なスペースがあるか確認してください。患者をスリングの上に載せるために、介助者の立つ側へ患者を反転させ、半分に折ったスリングを患者背部に配置します（図 25 を参照）。

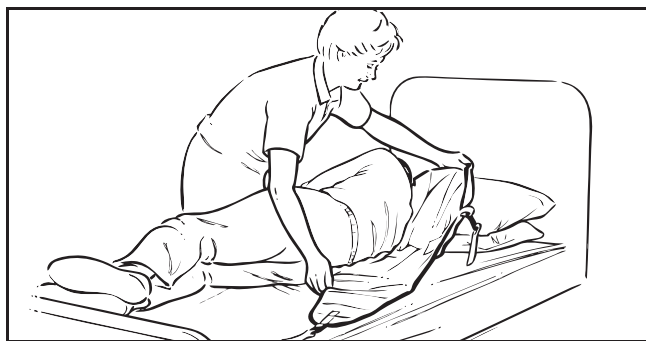


図 26

スリングを広げ、患者を反転させてスリングの中心に仰臥位に戻します。（図 26 を参照）。スリングのヘッドレスト部分が患者頸部を覆っていることを確認してください。

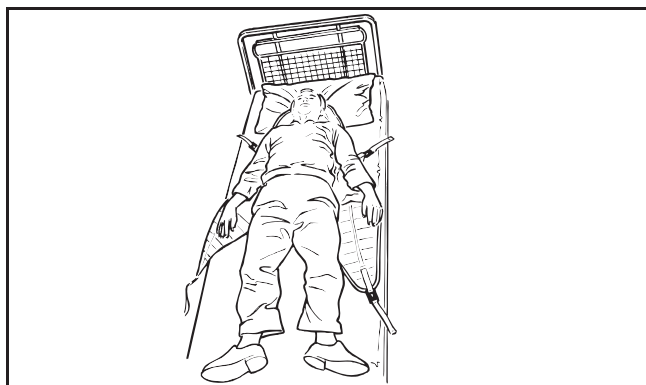


図 27

患者を反転させてスリング上に戻す際に、わずかに反対方向に反転させてスリングの折りたたみ部を広げられるようにします。

代替方法として、患者を座位姿勢にさせることもできます。次に「椅子から持ち上げるには」セクションで紹介したようにスリングの位置決めします。

スプレッダーバーのオープン側を患者の頭部に向けてベッドに近づけます（図 27 を参照）。

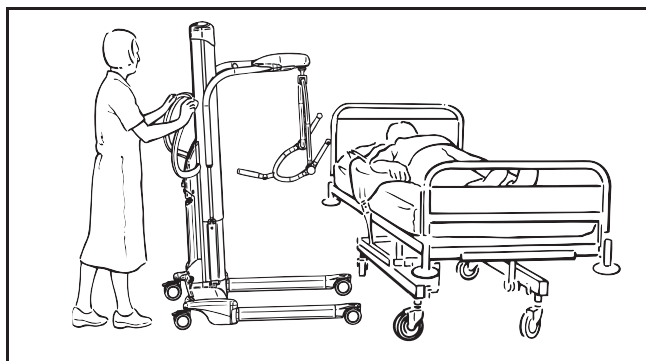


図 28

ベッドの脚部やキャスターなどの障害物を避けるために、幅調節可能なシャーシを使用してください。

ここで、スプレッダーバーが患者の真上中心にくるように MAXI MOVE の位置を調整します。

**警告：怪我を避けるため、スプレッダーバーを患者の上で下降させる場合は接触しないように注意を払ってください。**

ポジションハンドルを使ってスリングのショルダーストラップが届く位置までスプレッダーバーを傾けます（図 28 を参照）。

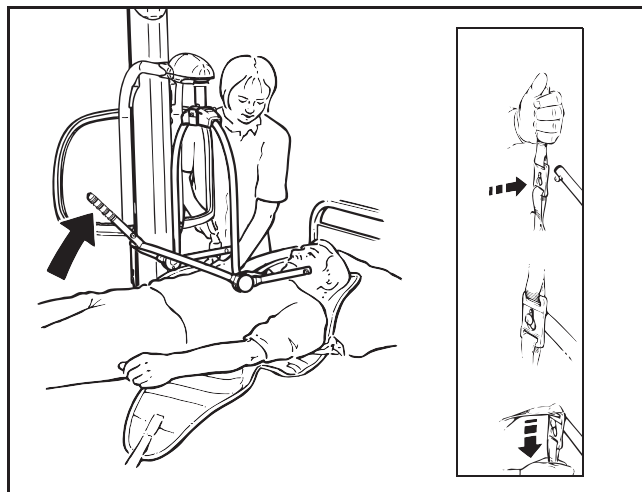


図 29

スリング脚部を接続できるようになるまでポジションハンドルを押し下げます（図 29 を参照）片脚ずつ持ち上げて患者大腿部下の脚部を取り付けます。上手く接続できない場合は手元スイッチを使用してスプレッダーバーを少し下降させてください。

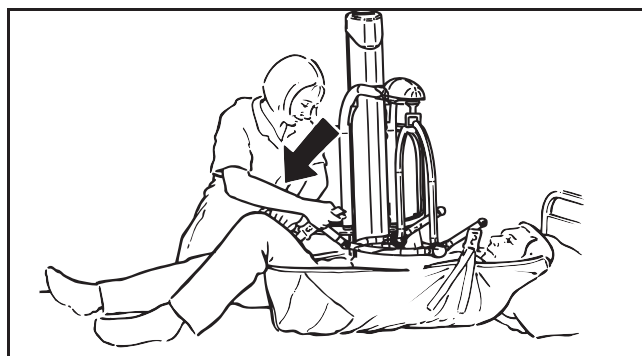


図 30

患者をベッドから持ち上げる場合、介助者によっては脚部ストラップから取り付ける場合があります。この方法は特に大腿部が大きな患者に向いています。その場合、臀部と膝を持ち上げて膝を最大に屈曲させた状態にしてから、脚部ストラップを取り付けます。次にスプレッダーバーをお願いします。患者の肩の方向に傾斜し、ショルダークリップを取り付けます。

**注意：スリングの取付クリップが昇降前と稼働中に適切な位置にあること、および患者の体重が徐々に持ち上がるにつれてスリングに適切な張力がかかっていることを必ずチェックしてください。**

# Maxi Move の使用方法

手元スイッチを使用して患者を持ち上げ、ポジションハンドルで患者を移乗に適した座位角度にします(図 30 を参照)。ヘッドレストが付いたスリングを使うと、介助者一人で介助ができ、リフトを使用することができます。

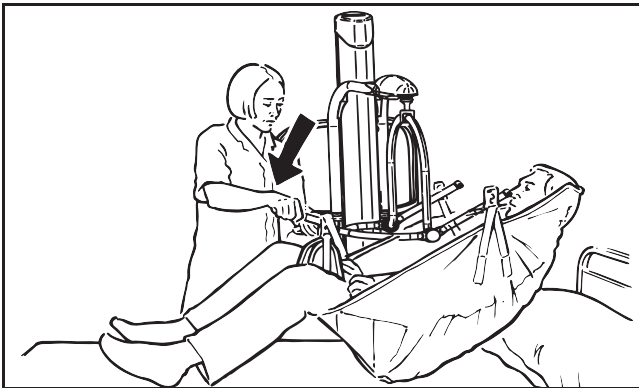


図 31

患者をベッドに戻す場合、必要に応じてスプレッダーバー位置を調節しながら患者をベッドの上の所望の位置に移動します。次に手元スイッチコントロールを使用して患者を下降させます。

スプレッダーバーを下降させる場合は、怪我を避けるため、患者および介助者の足が本リフトから十分に離れ、接触することがないことを確認してください。

**警告：スリングの脚部分接続クリップを取り外す場合は、患者の全体重がベッドに移動したことを確認し、ショルダークリップの取り外してから行ってください。**

患者の体の下からスリングを取り除く前に、MAXI MOVE を患者から離します。患者を椅子に移乗する場合は、「椅子から持ち上げるには」セクションを参照してください。

## 床からの持ち上げ方法

患者を横転させるか座位を取らせることによって、スリングを患者に装着します。まずシャーシ脚部を開き、次いで患者に接近し、患者の脚部を持ち上げてシャーシの上に乗せます。(図 31 を参照)

**注意：ストラップが MAXI MOVE の脚部の下に無いことを必ず確認してください。**

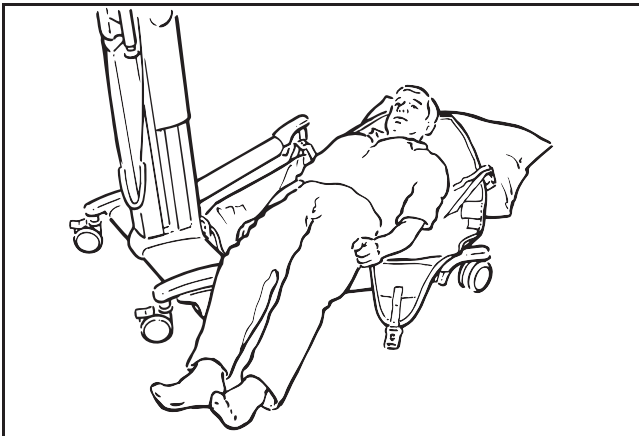


図 32

**注意：図 31 のように患者が脚部の上に位置づけられている間は、絶対に調節可能シャーシ脚部の制御装置を操作しないでください。**

スリングをスプレッダーバーに接続する際に、患者の頭部と肩部を枕を当てて少し高くすることでより快適にすることができます。

図 32 のように、スプレッダーバーの開いた部分を患者肩部に向けた状態でショルダーストラップ取付クリップを取り付け、はめ込みます。

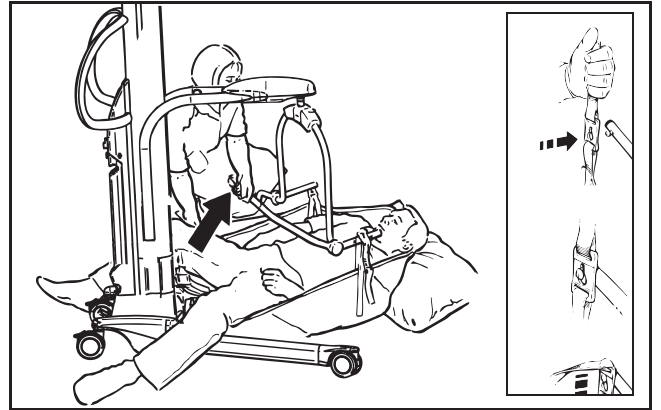


図 33

接続後に、図 33 のように患者の臀部と膝を持ち上げて膝を最大に屈曲させ、脚部ストラップ取付クリップを接続できるようにポジションハンドルを押し下げます。これには、患者の頭部と肩部を少し高くする効果があります。

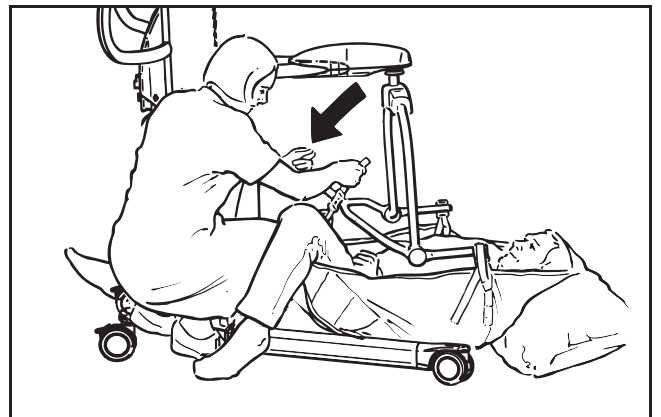


図 34

**注意：スリングの取付クリップが昇降前と稼働中に適切な位置にあること、および患者の体重が徐々に持ち上がるにつれてスリングに適切な張力がかかっていることを必ずチェックしてください。**

患者を床から持ち上げる際に、介助者によっては最初に脚部ストラップを接続する場合があります。これは、大腿部が太い非常に大きな患者に特に適用します。その場合、臀部と膝を持ち上げて膝を最大に屈曲させた状態にしてから、脚部ストラップを取り付けます。次にスプレッダーバーをお願いします。患者の肩の方向に傾斜し、ショルダークリップを取り付けます。

すべてのストラップがしっかりと取り付けられた時点で、患者を半リクライニング（半座位）姿勢で床から持ち上げます。患者の頭部を支えることで、より快適にすることができ、患者に安心感を与えることもできます。患者が床から離れた時点で、患者の脚部がシャーシに接触することがないことを確認してから、持ち上げを続けます(図 34 を参照)。

# Maxi Move の使用方法

スリングの脚部分は患者の股部領域でかなり高くなる傾向があります。より快適な状態にするには、それをまっすぐに整えてください。この時点で、患者を椅子に位置づけたり、ベッドに配置したりすることができます。伸筋痙攣患者を MAXI MOVE で持ち上げることはできますが、持ち上げの開始段階では患者の脚部を支えるような注意を払う必要があります。

**警告：スプレッダーバーを下降させる場合は、怪我を避けるため、患者および介助者の足が本リフトから十分に離れ、接触することがないことを確認してください。**

スリングの脚部分のクリップを取り外す場合は、患者の全体重がベッドに移ったことを確認し、ショルダー部分のクリップを取り外してから行ってください。

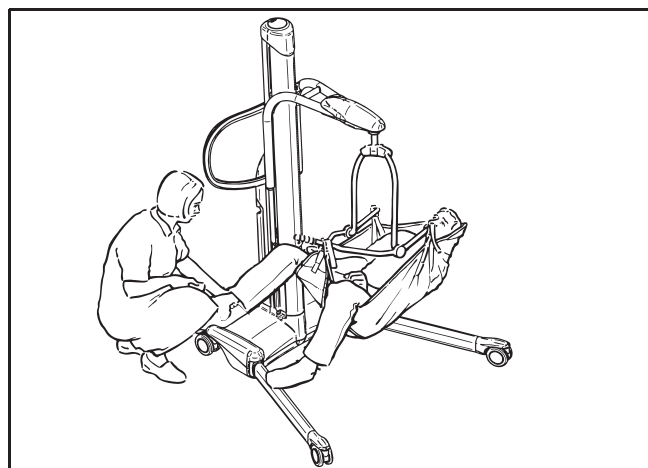


図 35

脚部を切断している患者をリフトする際は、肢切断患者用ダブルスリング（付属品として Arjo から購入可能）を使用してください。このスリングは、各患者の重心に対応できるように特別に設計されています。

患者移乗はシャーシ脚部が閉じた状態で行われる必要があります。出入り口での移乗が特に容易になります。通常、患者が介助者に面するように位置決めします。

## 電動 DPS スプレッダーバー

このリフトが電動式 DPS スプレッダーバーを装備している場合（図 35 を参照）、このタイプのスプレッダーバーの使用方法（患者装着時のスリング位置決め方法、スプレッダーバーへのスリング接続方法、および患者の取り扱い方法を含む）は、本説明書で前述した手動式 DPS スプレッダーバーと同じです。

**警告：電動式 DPS スプレッダーバーに装着されたリフトを使用する前に、図 35 に描かれた各種部品をよくご確認ください。また、怪我の原因となり得る過失を避けるため、本操作説明書をよくお読みの上、十分に理解してください。**

電動式 DPS スプレッダーバーは、前述の手動式 DPS スプレッダーバーの操作に関する操作説明書と併せて、以下の説明書に従って使用してください。

電動式 DPS スプレッダーバーを装備したリフトの持ち上げ能力は、手動式 DPS スプレッダーバーと同じです。

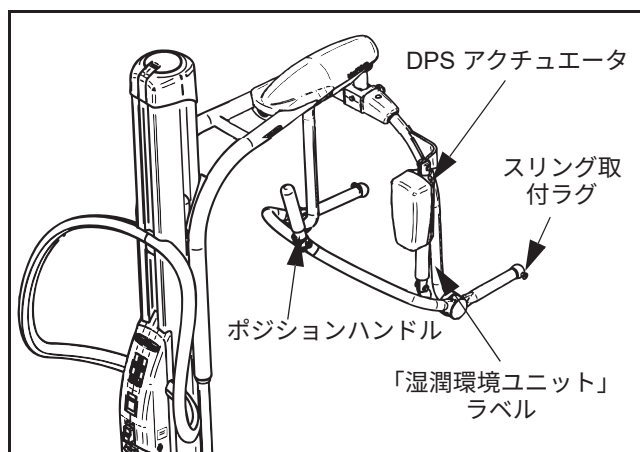


図 36

基本的な違いは、電動式 DPS スプレッダーバーでは患者の位置決め操作を行う際に介助者の身体的な負担が最小限になることです。

電動式 DPS スプレッダーバーの回転は手動で、手動式 DPS スプレッダーバーと同じ操作になります。

Arjo は、電動式 DPS を湿潤環境ユニットとして分類しています。これを示すため、青と白の円形ラベルが貼付されています。このラベルは、ラベル位置より上の部分を患者の入浴時またはシャワー浴時のいずれの場合にも水に浸してはならないことを意味します。

電動式患者位置決め（位置保持）機能を操作する前に、緑の電源ボタンが押された状態になっていることを確認します（図 8 を参照）。

患者位置決め機能（前述）を行う準備が整ったら、電動式 DPS の手元スイッチにあるコントロールボタン（図 6 を参照）またはコントロールパネル上にあるボタンを操作してスプレッダーバーを所要の位置に移動させます。



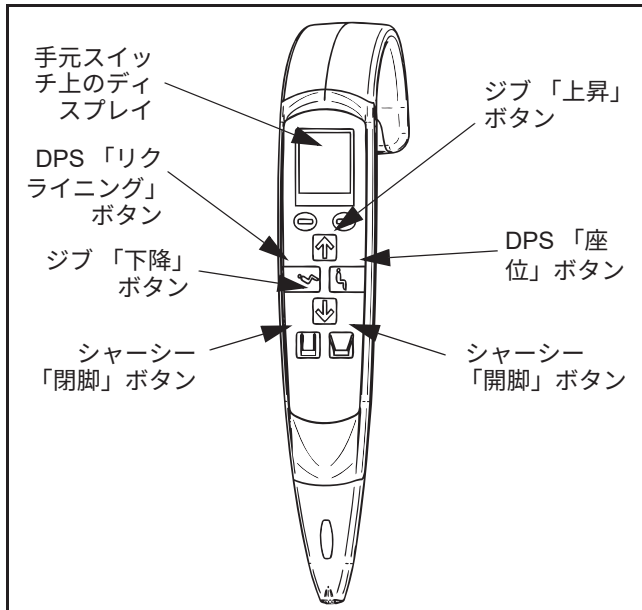


図 37

電動動作を停止するには、コントロールボタンを解除するか、または停止ボタンを押してください。

動作が停止されると直ちに、スプレッダーバーは適切な位置で停止します。

持ち上げ動作を開始する前に、必ずスプレッダーバーがジブにしっかりと接続されていることを確認してください。

**注意：**電動式 DPS スプレッダーバーの操作前と操作中に、スプレッダーバー、サポートフレームおよびジブがすべての障害物から離れていて接触することがないことを確認してください。

## 電動式 DPS スプレッダーバーの管理

一般的な手入れと管理については、「MAXI MOVE の管理」のセクションを参照してください。特にプラスチック部品の洗浄、ラベルの情報などを良くお読みください。

**注意：**PS アクチュエータには可動部分が含まれています。損傷しないように注意を払ってください。カバーが損傷したら、本リフトを使用しないで、本リフトを再び使用する前にアクチュエータを交換してください。

## ループ・スプレッダーバーの使用

MAXI MOVE にループスプレッダーバーが付いている場合は、スリングを取り付ける前にスプレッダーバーを適切な位置に回転して取り付け、最終的なリフトが、図 37 のようになるようにしてください。

ループスリングをループスプレッダーバーに取り付ける際は、必ずスリング取付ループが残りのフックに適切に取り付けられようにしてください（図 38 を参照）。

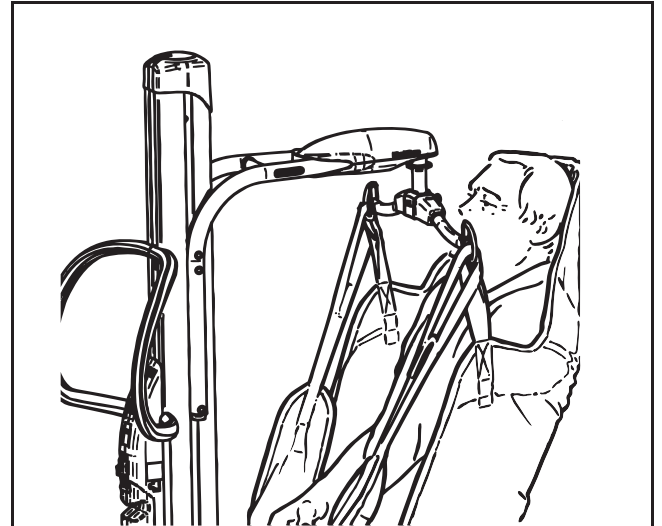


図 38

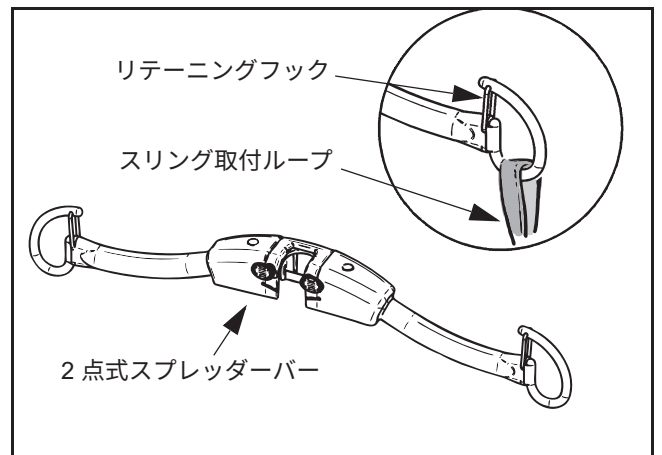


図 39

Arjo ループスリングはループスプレッダーバーと使用してください（図 4 を参考にしてください）。これらは 4 種類のカラーコードサイズ（小型、中型、大型および超大型）でご利用いただけます。さらに特化したスリング製品群に関する詳細は、Arjo または正規販売代理店にお問い合わせください。

ループスリングは、ヘッドレスト付きでもなしでもご利用いただけます。また、メッシュスリングがヘッドレスト付きでもなしでも 4 種類のすべてのサイズでご利用いただけます。

# Maxi Move の使用方法

## 椅子からの持ち上げ方法

先ず、必要に応じて患者をゆっくりと前傾させてください。スリングの縫い目「C」が脊椎底部に達するまでスリングを患者背部に沿って下にスライドさせてください（図 39 を参照）。

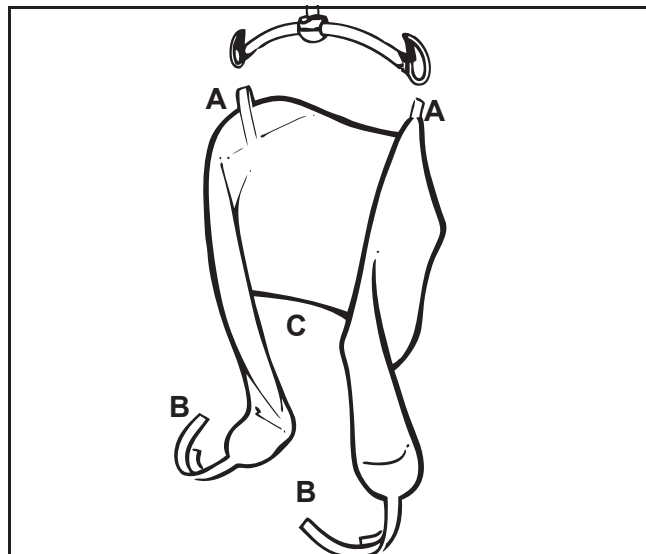


図 40



図 41

方法 1 — 取付ループ「B」とスリングの脚部分を患者大腿部の下に配置します。スリングの脚部分が患者の下でねじれていないことを確認します。取付ループをスプレッダーの対向側にあるフックに掛けます（上図 40 を参照）。

### 方法 2

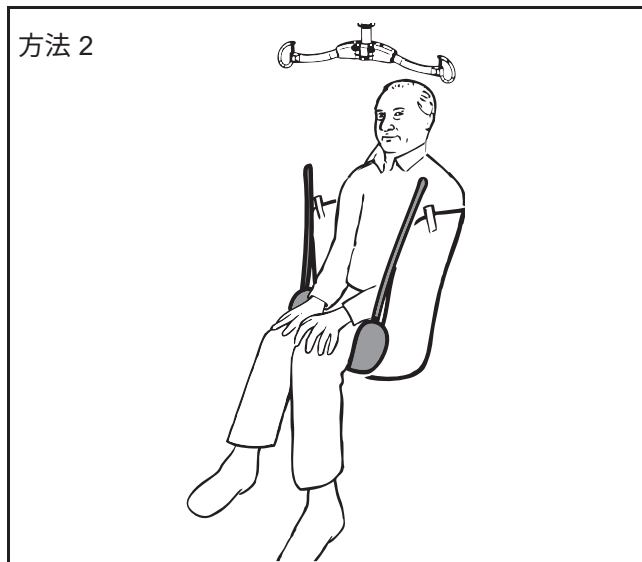


図 42

方法 2 — 方法 1 と同様ですが、「B」点をスプレッダーの対向側にあるフックに取り付ける前に、スリングの各脚部分を両方の大腿部下を通過させ、次いで他側から出します（上図 41 を参照）。

### 方法 3

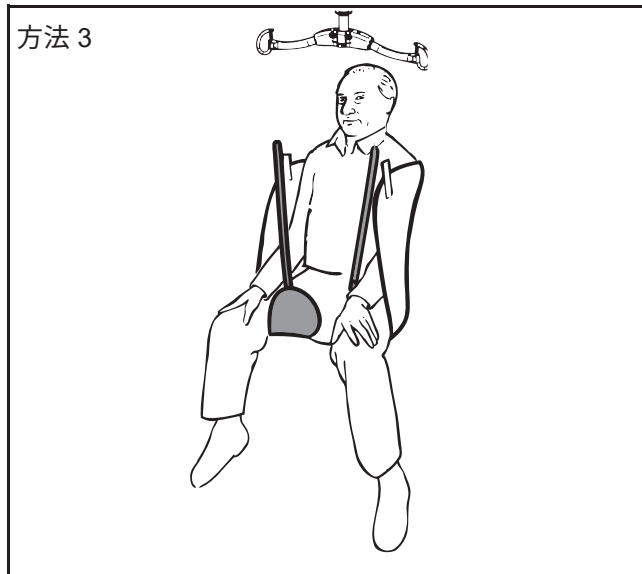


図 43

方法 3 — 方法 1 と同様ですが、スリングの脚部分を各大腿部の下でループにし、ショルダー取付具として同側のフックに取り付けます（左ストラップから左フックへ、および右ストラップから右フックへ）。この方法は、患者脚部の外転状態を保つことができるので、排泄介助に有用です（上図 42 を参照）。

**警告：**落下の危険を防止するため、スリングの取付クリップが昇降前と稼働中に適切な位置にあること、および患者の体重が徐々に持ち上がるにつれてスリングに適切な張力がかかっていることを必ずチェックしてください。

下降時に怪我を避けるため、患者と介助者両者の脚部と足が移動するマストから十分に離れていて接触することがないことを確認してください。

スリングが位置決めされ、しっかりとスプレッダーバーに取り付けられたら、コントロール手元スイッチを使用して患者を持ち上げることができます。一般的な患者の扱いと移動に関しては、「DPS スプレッダーバーの使用」セクションも参照してください。

上記の方法とは別に、DPS スプレッダーバーの使用が禁止される「下肢萎縮」患者の持ち上げに、ループスリング付きループスプレッダーバーも極めて有効です。スリングは「ベッドから持ち上げるには」スリングセクションで説明されているように取り付けてください。

## ベッドから持ち上げるには

スリングをシーツのように患者の下に配置します。患者の脚部を曲げ、スリング脚部分を患者の大腿部の下に配置します。スリングを上記方法 1～3 のいずれかの方法でスプレッダーバーに取り付けます。

**注意:** 患者を持ち上げる前にスリングの 4 点すべてがしっかりと接続されていることをチェックします。

## 床から持ち上げるには

**注記:** 介助者によっては、この操作に大きめのスリングを使用することを好みます。

患者を起こし、座位または半座位姿勢になるように支えます。スリングを患者の背部に沿って下にスライドさせます。スリングの脚部分を所定の位置に配置します。患者の脚部を持ち上げてシャーシの上に乗せ、本リフト所定の位置に配置します（図 43 を参照）。ジブを可能な限り低くして、ショルダーリングを取り付けます。患者の膝を曲げてスリングの脚部分に接続します。

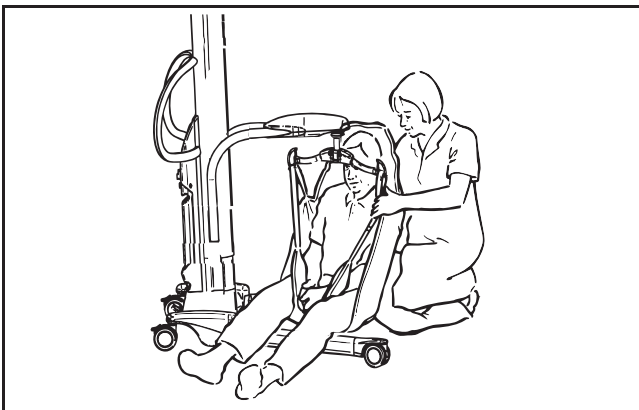


図 44

**注意:** 患者を持ち上げる前にすべてのループがしっかりと取り付けられていることを確認します。

スリングで支えられた患者を昇降するときは、キャスターブレーキを使用しないでください。これにより、リフトを患者の重心を使う正しい位置に移動することが可能となります。

患者をベッドに戻した時点で、スリングを取り外す前に患者を仰臥位にしてもかまいません。

**警告:** スプレッダーバーを下降させる際は、怪我を避けるため、患者と介助者両者の脚部と足が移動するマストから十分に離れていて接触することがないことを確認します。

## ストレッチャーフレームの使用

**警告:** 本リフトをストレッチャーと使用する際は、転倒事故を避けるため、患者移乗は平坦な場所でのみ行なってください。また、患者が常にストレッチャーの中央部に位置づけられていることを必ず確認してください。

このストレッチャーフレームは携帯性を支援するように設計されています。たとえば戸口を通過する際などにも本リフトからストレッチャーフレームを取り外す必要はありません。

**警告:** 怪我を避けるため、ストレッチャーフレームが患者を移乗するめに使用されている場合には患者を昇降させないでください。

**警告:** 拡張ジブを備えた Maxi Move では決してストレッチャーフレームを使用しないでください。付属品自体に示されているように、ストレッチャーフレームの安全耐荷重等級を遵守してください。

## ソフトストレッチャーの使用

ソフトストレッチャーは、ストレッチャーフレームと併用されることが意図されており、以下の 2 種類のサイズでご利用いただけます: 「大」および「特大」。材質は平織りポリエステルまたは洗浄用のメッシュポリエステルをご利用いただけます。両タイプとも、便器穴有り又は無しで利用できます。ストレッチャーフレームとソフトストレッチャーを使用して患者を持ち上げる際には以下の手順を使用してください。

**注意:** ソフトストレッチャーを MAXI MOVE と使用する前に、Arjo ストレッチャーフレームがキャリアに適切に取り付けられていることを確認してください（図 14 を参照）。適切に取り付けられたストレッチャーフレームは、その軸周りを約 90° 回転することができます。ストレッチャーフレームをジブに沿って一直線状に取り付けしないでください。

ストレッチャースリングの頭部部分を特定してください。その頭部部分の端部に縫合されているラベルを探してください。

ソフトストレッチャースリングは、患者を横転させてシーツを挿入するように敷いてください。スリングの上部セクション（スリングに貼付されたラベルによって示されているように）が患者頭部の下になっており、スリングの上縁部が患者の頭上部と同じ高さになっていることを確認してください。（図 44 を参照）。ストレッチャーフレームをできるだけ高く上昇させた状態で、ストレッチャーフレームが患者の真上に位置するまで本リフトを移動します。

# Maxi Move の使用方法

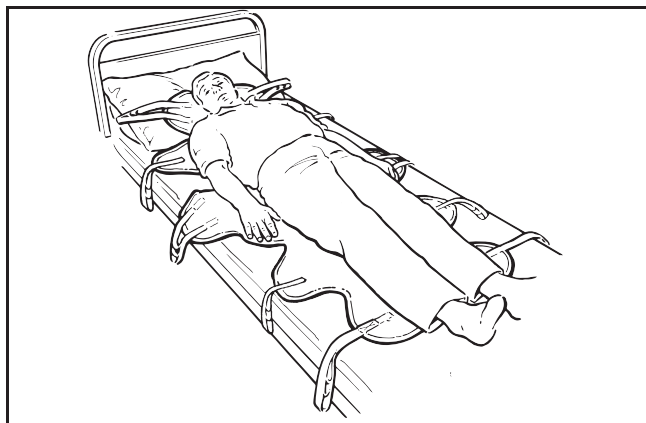


図 45

このフレームは左右対称なので、いずれの側からでも使用することができます。（図 45 を参照）。

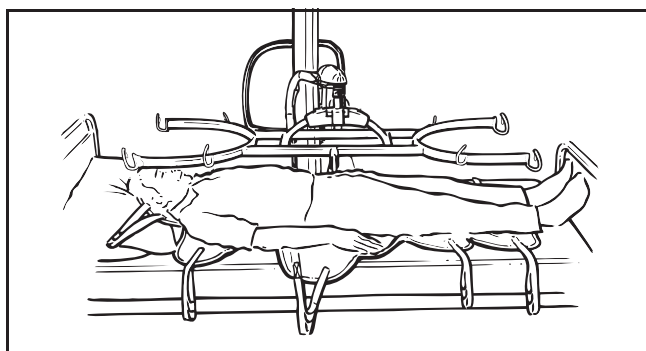


図 46

注意しながらストレッチャーフレームが患者の真上になるように下げます。フレームの中心が患者のへそのあたりにくるようにします。すべてのスリングループしっかりと接続します。（図 46 を参照）

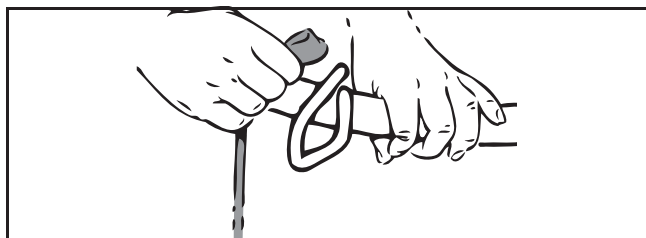


図 47

**注記：** 取付ストラップにはいくつかの接続ループが付いています。患者様が最も楽な体位で横たわれるよう、最適なループを選択してください。

**警告：** 本製品の安定性を確保し、患者と介助者の接触を維持するために、患者をほぼベッドの高さに維持することは必要不可欠です。  
ストレッチャーフレームを下降させる際は、怪我を避け、本製品の安定性を維持するために、患者と介助者の脚部と足が可動マストから十分に離れていて接触することがないことを確認してください。

患者を持ち上げ、ベッドから離してください（図 47 を参照）。

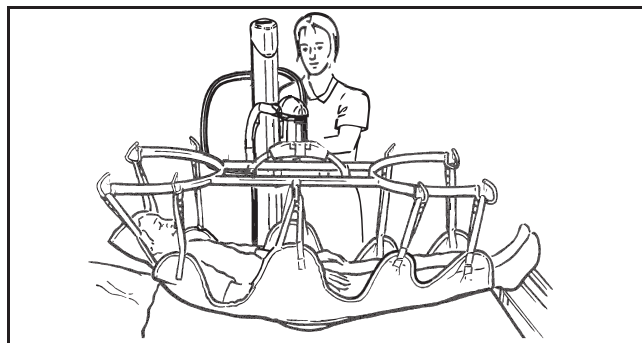


図 48

患者の足がマストに近接するまでストレッチャーフレーム回転させてください（図 48 を参照）。この位置では、ユニット全体を幅広い戸口に通して移動させることができます。あるいはストレッチャーをシャシー脚部に対して垂直にしておいてください。この位置では、本リフトと患者とを戸口を横向きに通して移動させることができます。

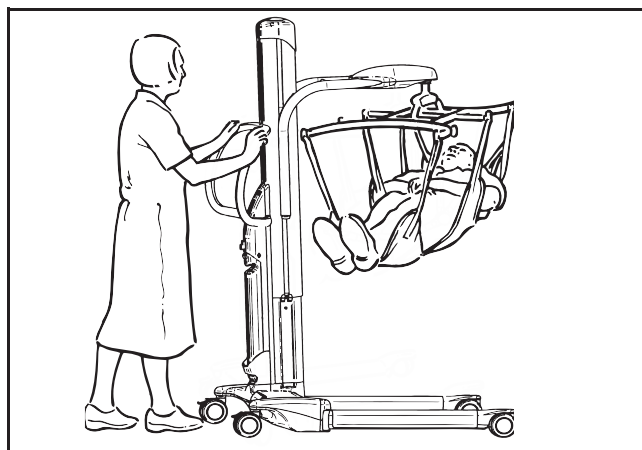


図 49

**警告：** 患者の不快感または落下の危険性を防ぐため、すべてが青色の取付具ストラップの付いたソフトストレッチャーだけを使用してください。

**注記：** 「頭側」のストラップには、他の Arjo ストレッチャーフレームでも使用できるように黒いラベルが縫い付けられています。

他のいかなるタイプのソフトストレッチャースリングも MAXI MOVE とは使用しないでください。

ページは意図的に空白にしています



# スケール

## 患者用スケールに関する情報

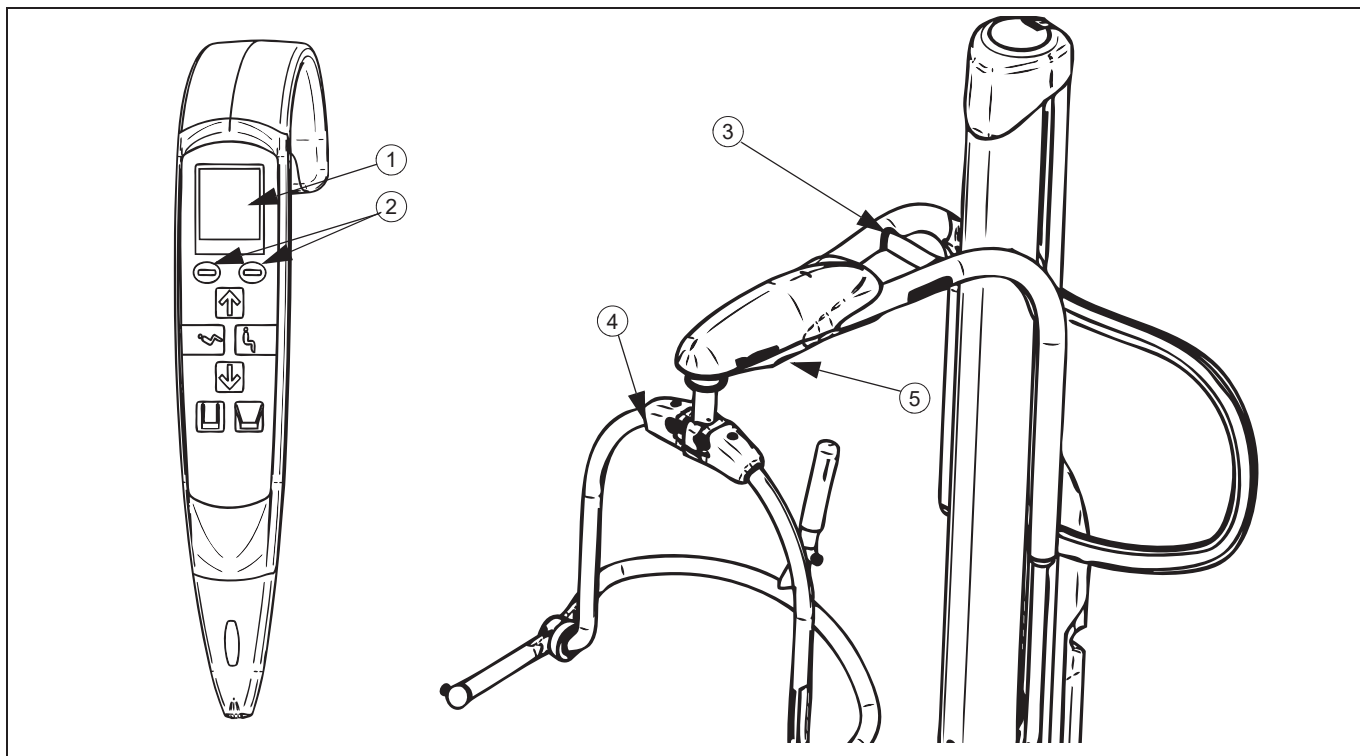


図 50

### スケールに関する項目 (図 57)

- 1) 手元スイッチのスケール表示部
- 2) 手元スイッチの操作ボタン
- 3) ジブ
- 4) スプレッダーバー
- 5) ロードセル用カバー

**警告:** このスケールは、訓練を受けた看護職員の監督の下で、病院または介護施設の患者を計量するように設計されています。怪我を避けるため、他のいかなる使用も避けてください。

MAXI MOVE に Arjo スケールが装備されている場合は、リフト上で患者を計量することができます。

### マーク/シール C.E. (C.E. ユニットののみ)

検査後に以下のマークがスケールラベル上に表示されます (図 58 を参照) :

- CE マーク (欧州共同体の統一法への適合を示し、その後に続く 2 桁の数字は、マークの添付年度を示します)。(図 1 参照)
- EU 調査を実行した通知機関の ID 番号
- EU 型式認証
- 精度等級
- 最大容量
- 最小容量

- 認証間隔
- 校正カウンター
- 重力設定カウンター
- 検査機関の ID と番号を表示するシール

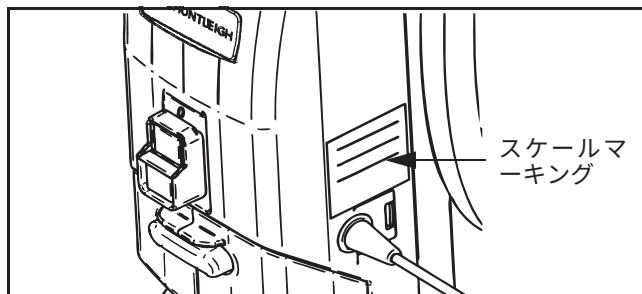


図 51

### 再検査

認証スケールの再検査は地方自治体 (各国が指定) が定める規定に基づいて実施する必要があります。

ロードセルの修理または交換などでシールが破れた場合は、床走行式リフト全体が失格となり、認証検査機関によって再検査が実施されるまで使用しないでください。

### 表示記号/機能

手元スイッチには、様々な数字と記号を表示する LCD が付いています。

LCD 画面は、体重をポンド単位でもキログラム単位でも表示することができます。

マイナス記号 (-) は重量が負の場合に表示されます（「方法 B - 既にスリング懸架された患者の計量」セクションを参照）。

本スケールは、重量を「総重量」モードでも「正味重量」モードでも表示することができます。

追加の機構には、バッテリー充電表示と予防保全表示が含まれます。

## 過重量警告記号

荷重がスケールの安全耐荷重 (SWL) を超えると、スケールは「大重量絵文字」と「小重量絵文字」を交互にに表示します（スケールのユーザー取扱説明書を参照）。

この警告は重量制限に基づいて表示されます：

- 標準ジブの場合：227.9 kg を超える負荷
- 拡張ジブの場合：130.9 kg を超える負荷

スケールが過重量状態になった場合は、ただちにその荷重を除去してください。その記号の表示が消えるまで、スケール/リフトを移動しないでください。

**注意：**本スケールを過重量状態にしないでください。このスケールユニットがスケール記号の大画像と小画像を交互に表示する場合、ただちに患者をベッド上にまたは椅子に下降させてください。

**注記：**<欧州向けスケールのみ>表示部がを示すより大きな「チルト」記号とスケール記号を交互にに表示する場合、スケールを適切に操作することができるように、MAXI MOVE を水平な位置に再配置してください（図 59 を参照）。

**注記：**本リフトの移動中や操縦中に表示部が、時折「チルト」絵文字を表示することがありますが、これは正常なことです。

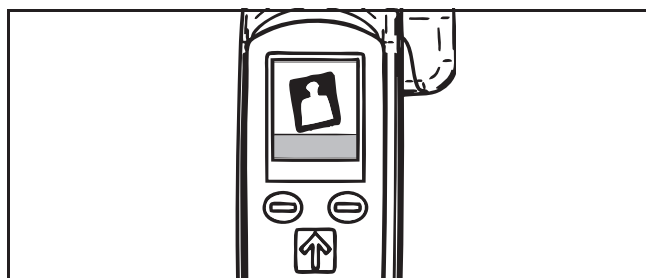


図 52

**注意：**計量操作中に、患者の体、ジブまたはスプレッダーバーに触れたり、もたれかかったりする行為は行わないでください。ジブおよびスプレッダーバーは計量機器の不可欠な部分ですので、計量中には、患者の体、スリング、またはスプレッダーバーのいかなる部分も、マストやジブに接触しないようにしてください。

**警告：**怪我を避けるため、患者が動揺している場合、介助者は患者の動揺が治まるまで待ってから、再び計量を試みる必要があります。

総重量は、電源投入時の重量基準値ゼロを意味します。正味体重は、荷重がジブに懸架されているときにスケールの表示をゼロに設定することができる「風袋重量」機能によって決定される荷重値として定義されます。

患者の計量には以下の 2 種類の方法があります：

**注意：**このスケールが自動ゼロリセットを行うためには、本製品は電源が投入されるときに平坦な水平面上で静止状態でなければなりません。

本スケールが「0.0」を表示するまで、本リフトまたはそのコンポーネントを操作しないでください。上記を守らない場合、スケールが誤った読み取り値を表示することがあります。

## 方法 A — 患者がスリング懸架される前の計量

- 電源ボタンを押して、MAXI MOVE の電源を入れます。
- 起動時にスリングが既にスプレッダーバーに取り付けられている場合、MAXI MOVE は既に自動的にゼロ設定されており、スリングの体重も計算に入れています（図 60 を参照）。

手順 4 に進みます。

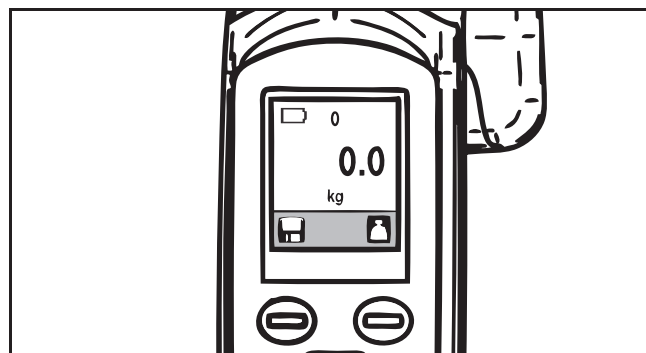


図 53

起動時に本リフトにスリングが懸架されていない場合は、スリングを取り付けます。ここでスケールはスリングの重量を画面上に表示します（図 61 を参照）。

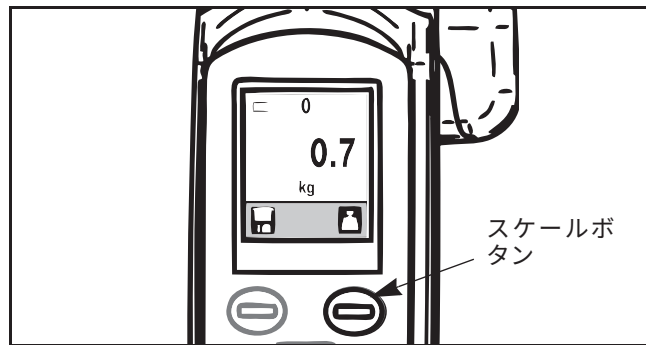


図 54

- 「スケール」ボタンを押してスケールをゼロに設定します。ここで表示部はゼロ重量を表示します（図 62 を参照）。



# スケール

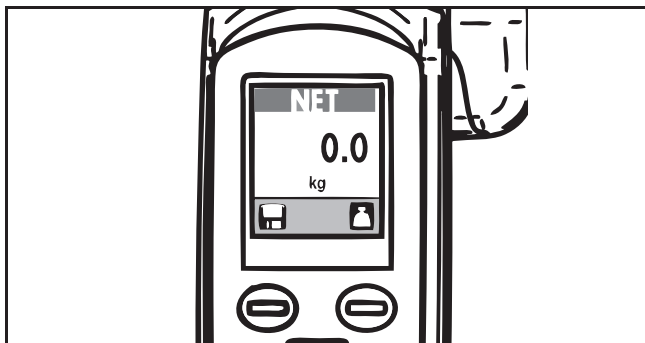


図 55

- 4) 患者がベッド、椅子、床などの障害物から離れていて接触しなくなるまで患者を持ち上げます。重量の読み取り値が安定するまで待ちます。

表示される数字は患者の体重を示すまで、ボタンを再度押さないでください（図 63 を参照）。

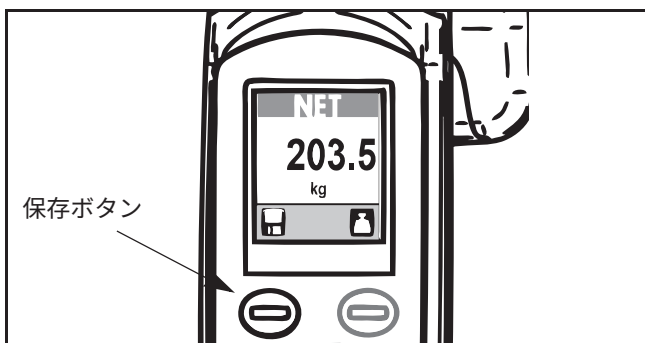


図 56

- 5) 正味重量をメモリに保存する必要がある場合は保存ボタンを押します。正味重量をメモリに保存する必要がある場合は保存ボタンを押します。画面上の数字（計量値）の上下に水平バーが表示されて、保存機能が起動されたことを示します。「保存」機能は保存ボタンが再度押されるまで有効です（図 64 を参照）。

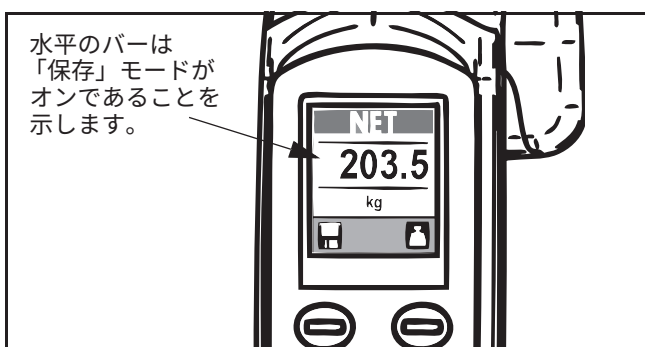


図 57

## 方法 B — 既にスリング懸架された患者の計量

既にリフトに乗せている患者の体重を測定する必要がある場合、懸架されている患者がベッド、椅子、床などの障害物から離れていて接触することがないことを確認してください。

- 1) スケールボタンを押してゼロの読み取り値を表示させます（図 65 を参照）。

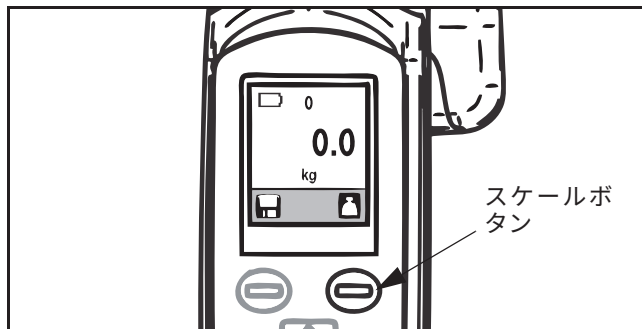


図 58

- 2) 患者の移乗を完了して患者をリフトから降ろします。スケールにマイナスの数字が表示されます（図 66 を参照）。

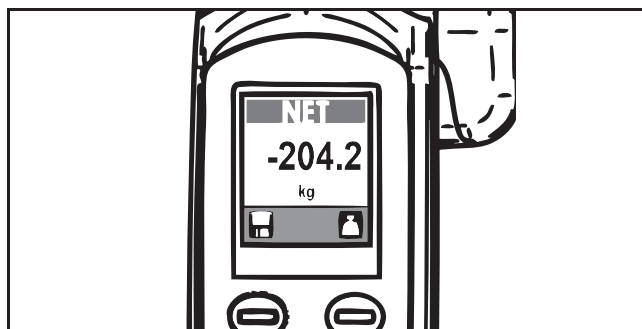


図 59

- 3) スリングを再び MAXI MOVE に取り付けます。画面上に表示されている数字の前に付いたマイナス記号は無視します。重量の読み取り値が安定化するまで待ちます。ここで表示される重量は患者の実際の体重です（図 67 を参照）。

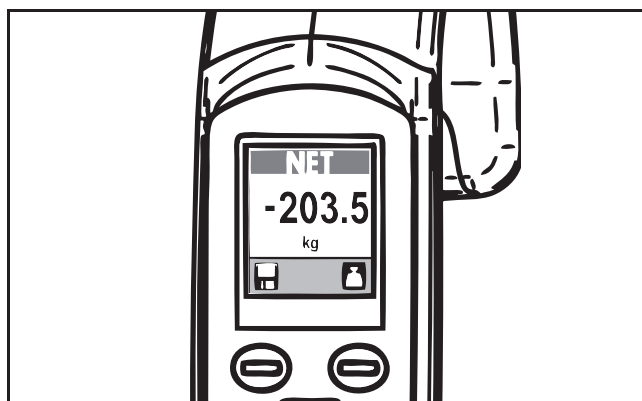


図 60

- 4) 正味重量をメモリに保存する必要がある場合は保存ボタンを押します。正味重量をメモリに保存する必要がある場合は保存ボタンを押します。画面上の数字（計量値）の上下に水平バーが表示されて、保存機能が起動されたことを示します。「保存」機能は保存ボタンが再度押されるまで有効です。

**注意：**患者がスリングで懸架されているときに本製品がリセットされると、スケールは、ゼロ範囲から逸脱して、「8888.8」を表示して「エラー」ステータスであることを示します。患者を MAXI MOVE から降ろし、本製品をリセットします。

## 測定単位

表示単位は欧州向けにキログラム単位に設定されていて、変更することはできません。欧州向けでない機器では、測定単位を「kg」または「lb」のいずれかに設定することができます。

- 1) 起動時に、本スケールの両方の操作ボタンを同時に押します（図 68 を参照）。

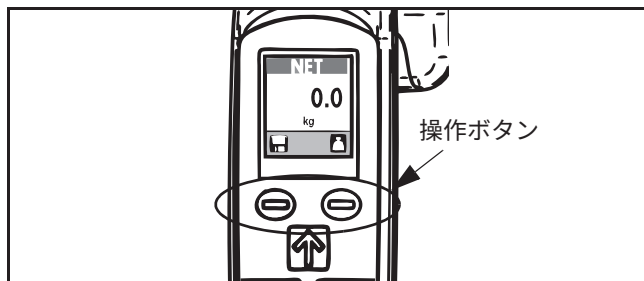


図 61

これは、ホイストステータス画面へのアクセスを提供します。2 個の交差レンチが画面中央に表示されます。また、上下の矢印が画面の上下部に表示されます（図 69 を参照）。

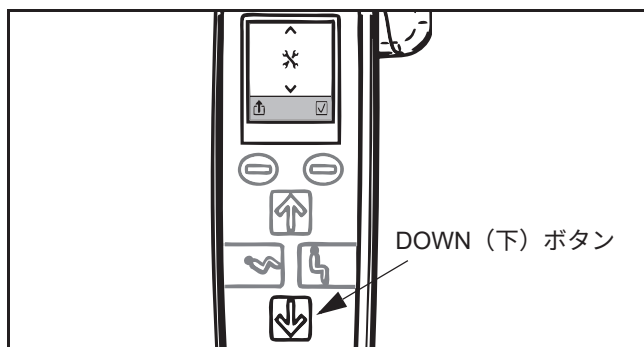


図 62

- 2) 次に、「DOWN」ボタンを押して設定メニューにアクセスします。

画面中央に表示されていた交差レンチはスケールアイコンで置換されます（図 70 を参照）。

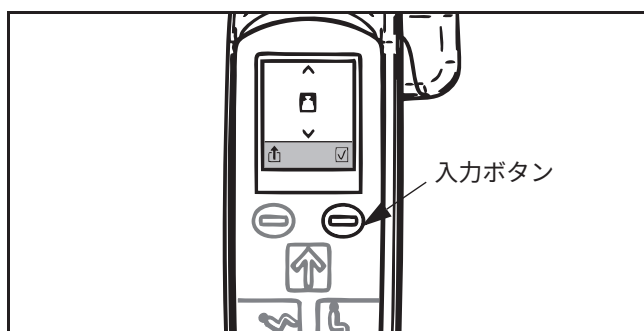


図 63

- 3) 入力ボタンを押して測定単位オプションにアクセスします。測定単位「kg」または「lb」により、中央画面のスケールアイコンが置換されます（図 71 を参照）。

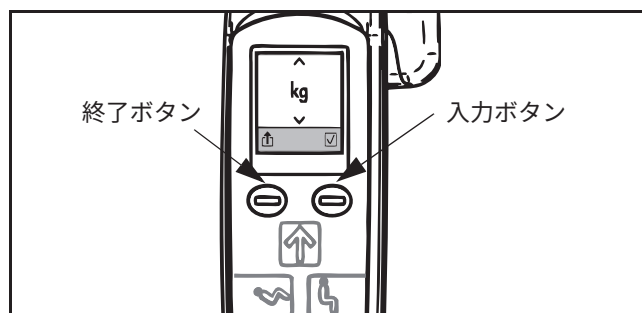


図 64

- 4) 「DOWN」ボタンを押して表示を「kg」または「lb」に切り替えます。
- 5) 設定を保存して正常モードに戻るには入力ボタンを押します。設定を保存しないで終了するには終了ボタンを押します。

# スケールーハンドセットに関する注意事項ミニガイド

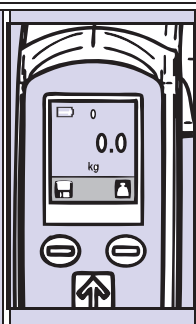
## 方法 A

### 起動時

スリングが既にスプレッダーバーにある場合

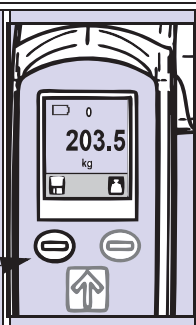
#### 手順 1

本製品は既に自動的にゼロ設定されていてスリングの重量も考慮されています。



#### 手順 2

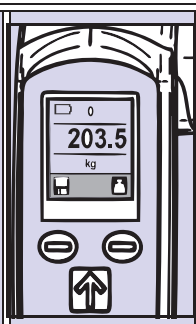
患者を計量します。表示部上の数字は患者の実際の体重です。



保存ボタン

#### データを保存するには

保存ボタンを押して画面に表示された測定値を保存します。再度保存ボタンを押して正常モードに戻ります。



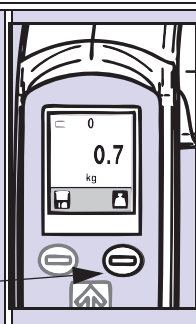
### 起動時

スリングがまだスプレッダーバーにない場合

#### 手順 1

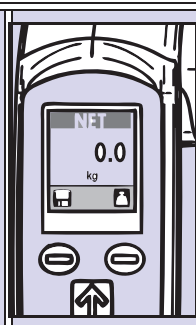
スリングをスプレッダーバーに取り付けます。表示部にスリングの重量が表示されます。

スケールボタン



#### 手順 2

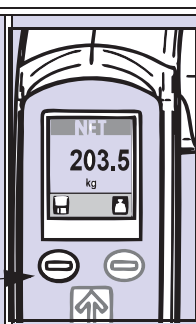
スケールボタンを押して風袋を測量。これで表示部にゼロ重量が表示されます。



#### 手順 3

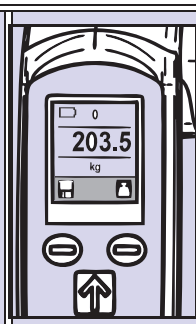
患者を計量します。表示される数字は患者の実際の体重です。

保存ボタン



#### データを保存するには

保存ボタンを押して画面に表示された測定値を保存します。再度保存ボタンを押して正常モードに戻ります。



## 方法 B

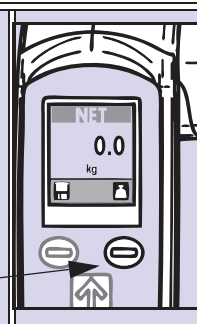
### 移動中

患者が既にリフトに乗っている場合

#### 手順 1

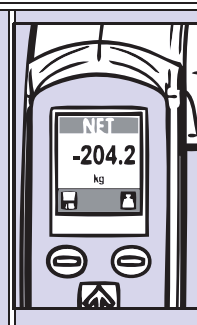
スケールボタンを押してゼロの読み取り値を表示させます。

スケールボタン



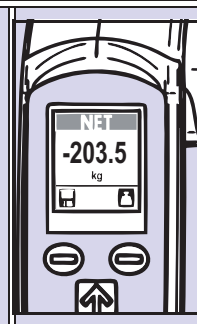
#### 手順 2

患者移乗を完了して患者をリフトから降ろします。表示部の読み取り値はマイナスの数字になります。



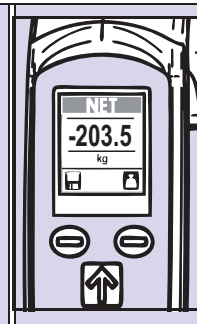
#### 手順 3

スリングを再びスプレッダーバーに取り付けます。マイナス記号は無視します。表示部の読み取り値は患者の実際の体重です。



#### データを保存するには

保存ボタンを押して画面上の体重を保存します。保存ボタンを押して正常モードに戻ります。



# スケールーハンドセットに関する注意事項ミニガイド

## 測定単位を変更します

### 起動時

#### 手順 1

ホイスステータス画面を表示するには両操作ボタンを同時に押します。

操作ボタン

#### 手順 2

設定画面にアクセスするには手元スイッチ上の「DOWN」ボタンを押します。表示される最初の画面は重量単位画面です。

DOWN  
(下)  
ボタン

#### 手順 3

保存ボタンを押して画面に表示された測定値を保存します。再度保存ボタンを押して正常モードに戻ります。

入力ボ  
タン

#### 手順 4

表示を「kg」または「lb」に切り替えるには「DOWN」ボタンを押します。

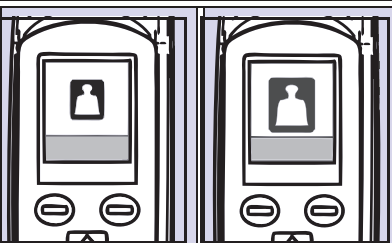
DOWN  
(下)  
ボタン

#### 手順 5

設定を保存して正常モードに戻るには入力ボタンを押します。

## 警告画面

### 過重量警告



表示部にスケールの大記号と小記号が交互に表示されます。ただちに患者を下降させます。

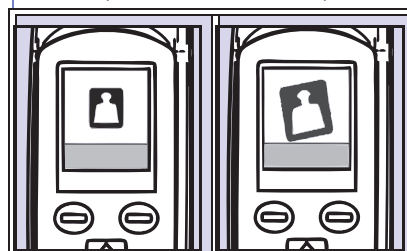
### 重量不足警告

表示部には下限値が表示されます。重量を取り除き、リフトをリセットします。



### 傾斜警告 (欧州向けスケールのみ)

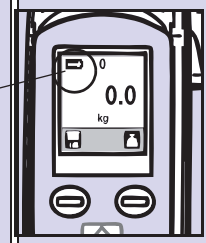
(欧州向けスケールのみ)



表示部にスケール記号と大きな傾斜記号が交互に表示されます。水平な床面に再配置して再度計量を試みます。

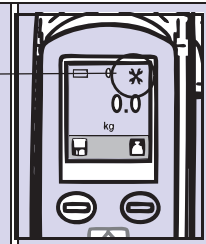
### 低バッテリー残量

表示部の左上コーナーに低バッテリー残量記号が表示されます。できるだけ早くバッテリーを再充電します。



### その他の警告

表示部の右上コーナーに交差レンチが表示されます。Arjo サービス技術者までご連絡ください。



(次のコラムに続く)

# バッテリー充電中

MAXI MOVE はコントロール手元スイッチにバッテリー充電表示機構を搭載しています。本バッテリーの充電レベルは初期起動直後またはスリープモードから復帰後に自動的に LCD に表示されます（図 72 を参照）。

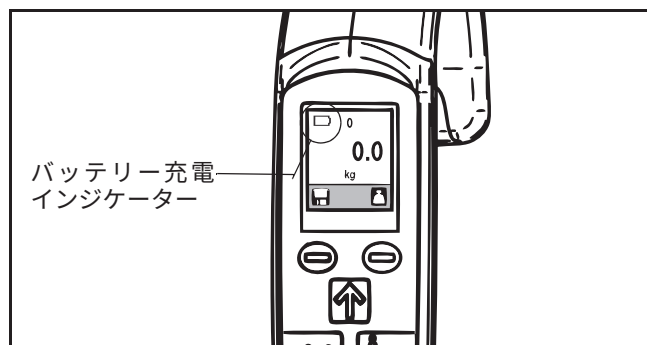


図 65

バッテリー寿命を伸ばすには、低充電状態になる前にバッテリーを定期的に充電することが推奨されます。バッテリーを不必要に放電させないように注意を払う必要があります。

コントロール手元スイッチ上のバッテリーインジケータは、MAXI MOVE のバッテリーがほとんど完全な放電状態になったことを表示し、1 分ごとにピープ音を 2 回発生します（図 73 を参照）。その時点では、患者移乗を完了させ、バッテリーを充電する必要があります。

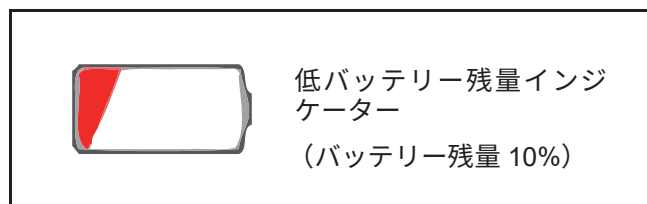


図 66

バッテリーが完全に放電した場合、本リフトは自動的にスリープモードに入ります。その状態で本リフトの使用を試みると、本製品はピープ音を 3 回発生し、手元スイッチに低バッテリー残量アイコンが短時間表示されます。本リフトは次いでスリープモードに復帰し、バッテリーが充電されるまで操作不可能になります。

## バッテリーパック

バッテリーの寿命は変動（2～3 年）し、適切な充電慣行と負荷量の影響を受けます。

**注意：バッテリーは、本製品の効率と本バッテリー寿命の延長を確保するため、本リフトを初めて使用する前に最低 8 時間充電する必要があります。**

## バッテリーの取り外し

コントロール手元スイッチ上のバッテリー充電表示に低バッテリー残量アイコンが表示されたら、患者持ち上げ・移乗サイクルを完了してください。次いで本リフトを適切な位置に移動して、バッテリーを取り除きます。この着脱可能なバッテリーにより、放電したバッテリーに起因するダウンタイムを削減できます。放電したバッテリーを取り除くには、赤のボタンを押し、手前方向に一直線に引き抜きます（図 74 を参照）。そのパックを、壁掛け式充電ユニットの 1 つでフル充電されたバッテリーと交換します。

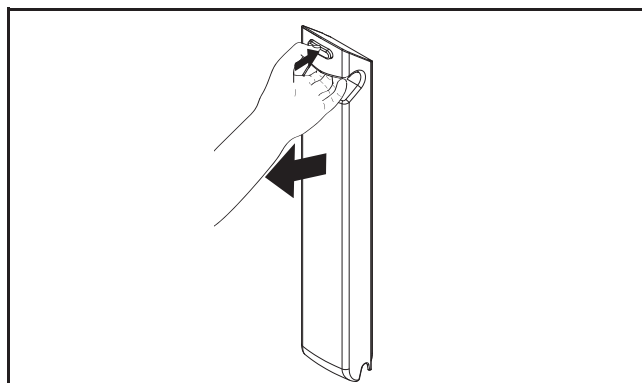


図 67

## バッテリーの充電

MAXI MOVE には、コントロールボックスの下に取り付けられた密閉形鉛蓄電池が使用されています。鉛蓄電池はメモリー効果の影響を受けません。よって、これらの蓄電池は充電する前に完全に放電させる必要がありません。コントロールボックスには、本リフトがスタンバイモードにあるときにバッテリー放電を防止するため、2 分間使用されないと起動して電源を遮断する自動遮断制御機能が搭載されています。本リフトへの電源は、手元スイッチまたはコントロールパネルの任意のボタンを押すことによって再起動されます。

本リフトが長期間使用されない場合はバッテリーを取り外すこと、およびコントロール手元スイッチ上のバッテリー放電インジケータに低バッテリー残量表示が表示されたときに再充電を行うことを推奨します。

バッテリー寿命を伸ばすには、低充電状態になる前に充電してください。

このリフトには、手元スイッチ上のバッテリー放電インジケータに低バッテリー残量アイコンが表示されると警告音を発する可聴警告装置が搭載されています。

MAXI MOVE が必ずいつでも使用できる状態にするため、フル充電されたバッテリーを常備しておくことを推奨します。バッテリーを常備しておくことで、1 個のバッテリーを使用中に別の 1 個を充電しておくことができます。

フル充電されたバッテリーが本リフトに挿入されると、手元スイッチ上の表示部に緑のフル充電されたバッテリー記号が表示されます。ただし、部分的に充電されたバッテリーが挿入されると、手元スイッチの表示部には挿入されたバッテリー充電状態を反映する記号が表示されます。



本製品用に設計され表示されているバッテリーだけを  
使用してください。確認できないバッテリーは使用し  
ないでください。使用しようとするバッテリーは、そ  
のバッテリーのラベルを本取扱説明書の技術仕様と比  
較参照して、本装置用に適合することを必ず確認して  
ください。バッテリーのタイプを確認できない場合  
は、有資格者に連絡してください。

## 本バッテリーの再充電：

壁掛け式バッテリー充電器 — 取扱説明書 001-24257-\*\*  
を参照してください。

**警告：**バッテリーは、落として損傷させたり、怪我を引き  
起こしたりしないようにしっかり保持してください。

**警告：**火災および/または化学物質が漏れ出す危険性を避  
けるため、本バッテリーを直射日光のあたる場所や熱源  
の近くに配置したり、保管したりしないでください。

**警告：**バッテリーを火気に近づけないでください。バッ  
テリーや充電器から化学物質が漏れ出す可能性があります。

遵守すべき優れたプロトコルには、作業シフトごとに  
フル充電されたバッテリーを準備しておくことが含ま  
れます。

本バッテリーのリサイクルと廃棄に関しては、現地の  
法令に従ってください。規定や法令を遵守しない場合  
は、バッテリーの爆発、漏出および怪我を引き起こす  
ことがあります。バッテリーを返送する場合は、その  
端子間を接着テープで絶縁してください。使用され  
たバッテリー内部の残留電気により、火災や爆発を  
生じることがあります。以下のダイアグラム図には  
廃棄記号とリサイクル記号が示されています（図 75  
を参照）。

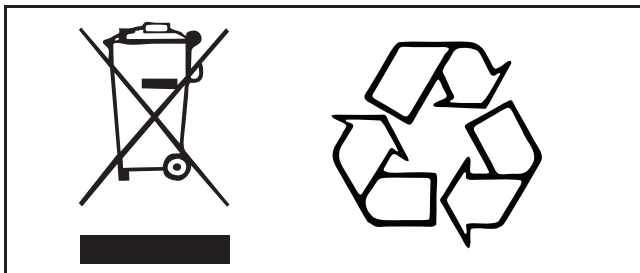


図 68

## バッテリーと充電器の安全対策

壁掛け式バッテリー充電器 — 取扱説明書 001-24257-\*\*  
を参照してください。

# MAXI MOVE のケア

以下の対応は、本製品の使用頻度により異なります。別段の記載がない限り、毎回の使用前にこのセクションに記載の洗浄手順、管理手順および点検手順に従ってください。

## スリングの洗浄と管理

スリングは各患者による使用前後に必ずチェックし、必要であれば当該スリングに関する注意事項に厳密に従って洗浄する必要があります。これにより交差感染の危険性を最小限に抑えられますので、同一製品を別の患者に使用される場合には特に重要です。また、スリング指示シート MAX81785M-INT も参照してください。

洗浄・乾燥手順中の転圧、押圧などの機械的圧力は、スリングの安全性を損ない、快適な操作に重要な部品を損傷する可能性があるため、避ける必要があります。

ストラップストレッチャーのクロスストラップおよび吊りストラップは、確認の必要があり、必要に応じて洗浄してください。洗浄温度と乾燥温度は 80°C (176°F) を超えてはなりません。通常の洗剤を使用した洗浄。アイロンを使用しないでください。また、スリング指示シート MAX81785M-INT も参照してください。

使用前には毎回必ず、スリング、そのストラップ、ループおよび取付クリップが入念に点検されることが必要不可欠です。スリング、ループまたはストラップの縫製糸がほつれたり、クリップが損傷している場合には、スリングは使用してはならず、ただちに交換する必要があります。

## リフトの洗浄、消毒、ケア

**注記:** 本リフトとその付属品は、各患者の使用後に洗浄することを推奨します。

**警告:** 目と皮膚の怪我を避けるため、本リフトまたはその付属品の消毒は、患者のいる場所で行ってはいけません。また、消毒の際には必ず保護メガネと保護手袋を使用してください。接触が起こった場合は、多量の水で洗い流してください。目や皮膚に炎症が起きたら、医師の治療を受けてください。消毒剤に関連する化学物質安全性データシートを必ず読んでください。

以下の目に見える残留物を取り除きます:

- 1) 水を含浸させた布を使用します。
- 2) 天井走行リフトとその付属品の上から下まで目に見える残留物を取り除きます。

一般洗浄:

- 1) 温水と中性洗剤で湿らせた布を使用してください。
- 2) すべての目に見える残留物を除去しながら、装置を上から下に拭いてください。
- 3) 洗剤が残っているときは、きれいな水ですすぎます。乾いた布できれいに拭き取ってください。

**注記:** 以下の箇所には特別な注意を払ってください。これらは、病原菌の温床となる可能性が最も高い箇所です。これらの箇所にアクセスするには、小さなブラシおよび/または綿棒などを使用してください。

ワイプを使用するときは、機器をしっかりとこすって、リフトの表面を効果的に掃除してください。

**注意:** 本製品を水浸しにしないでください。電気部品を損傷させ、内部の腐食を引き起こす可能性があります。

熱風乾燥器を使用してリフトまたは機器を乾燥する場合は、その温度が 80°C (176°F) を超えないでください。

メタノールベースの溶剤や仕上げやプラスチック部品を破損する恐れがある他の溶剤を使用しないでください。



## Maxi Move の特別な洗浄・消毒箇所

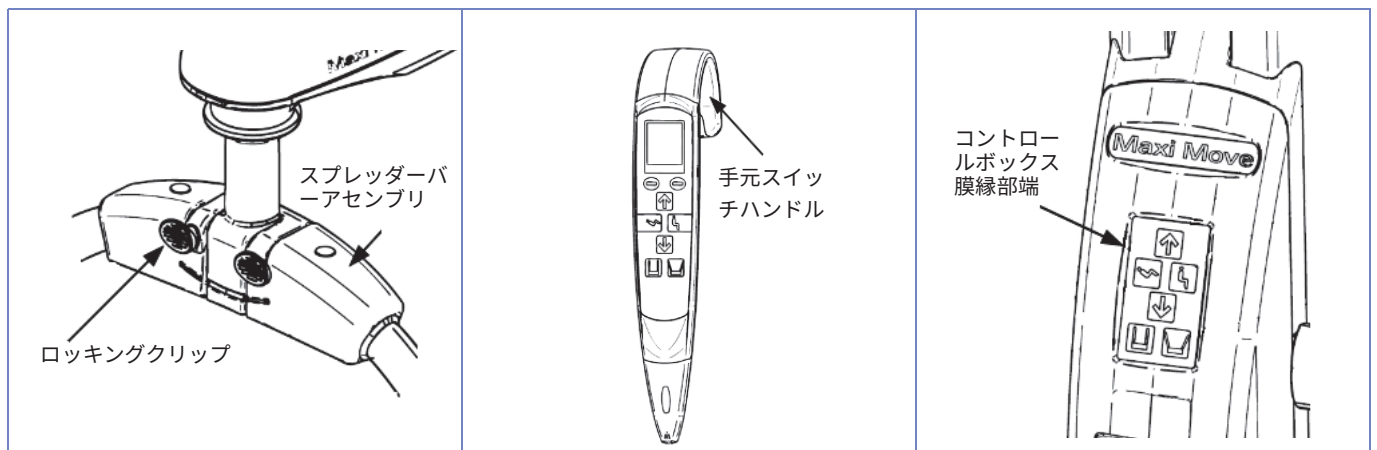


図 69

機器を消毒するには、まず機器を洗浄してから、互換性のある次の消毒剤のいずれかを含む溶液で拭いてください。

消毒剤	Maxi Move	ロッキングクリップ	スプレッダーバーアセンブリ	手元スイッチハンドル	コントロールボックス膜縁部端
第四級アンモニウム ≤ 0.28% (2,800 ppm)	X	X	X	X	X
イソプロピルアルコール ≤ 70%	X	X	X	X	X
フェノール ≤ 1.56% (15,600 ppm)	X	X	X	X	X
過酢酸 ≤ 0.25% (2,500 ppm)	X	X	X	X	X
漂白剤 ≤ 1% (10,000 ppm)	X	X	X	X	X
過酸化水素 ≤ 1.5%	X	X	X	X	X

**注記：**機器を消毒すると、機器の一部が変色することがあります。ハンドセットケーブル（漂白剤および / または過酸化水素）および DPS ハンドル（過酸化水素）は、上記の消毒剤と繰り返し接触すると、少し汚れたように見える場合があります。

消毒方法は、医療施設または使用国に応じた地域または国のガイドライン（機器の除染）に準拠する必要があります。ご不明な点は、地域の感染管理担当者にご相談ください。

**注意：**本製品を水浸しにしないでください。電気部品を損傷させ、内部の腐食を引き起こす可能性があります。熱風乾燥器を使用してリフトまたは機器を乾燥する場合は、その温度が 80°C (176°F) を超えないで下さい。石油ベース溶剤は、プラスチック部品を損傷させることがありますので、使用しないでください。

イソプロピルアルコール 70% の v/v 溶液を染みこませた消毒済みティッシュを使うこともできます。本リフト表面を消毒する際は、本体を布でしっかり拭き取りをしてください。70% v/v イソプロピル・アルコールによる拭き掃除は、軽く汚れた状態のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌などいくつかの微生物に対して効果を発揮することが証明されています。

ページは意図的に空白にしています

## 必須の日常点検

以下のチェックは毎日実行される必要があります。

- バッテリーが常にフル充電されていることを確認します。
- キャスターがシャーシにしっかり固定されているか確認します。
- すべての部品、特に患者の体と密接な接触がある箇所を注意深く点検する。患者の皮膚を傷ついたり非衛生的になり得る亀裂や鋭角部分がないことを確認します。
- すべての外部取付金具が固定され、ネジやナットがすべて締まっているか確認します。
- すべての指示ラベルがしっかり貼付され、判読可能であることを確認します。

## 定期的なテスト

一部のテストは、週に 1 回の間隔で行う必要があります。すべての機能が作動することを確認するため、様々な機能の定期的なテストを行うことが推奨されます。質問やご不明な点がある場合、または本リフト製品の性能が変化した場合は、最寄の Arjo 代理店にご連絡ください。

**持ち上げメカニズムと下降メカニズムの完全かつ効率的な動作のテスト:** コントロール手元スイッチを使用してジブの持ち上げと下降を行う。コントロールパネル上のボタン・スイッチでもメカニズムをテストする。

**自動停止機能:** ジブを最も低い位置よりも十分に高くなった状態、および本リフトを空のベッド上に位置つけた状態で、手元スイッチコントロールを使用してジブをベッド上に下降させます。ジブの下降が制限されるようになると、昇降モーターが停止します。1～2 秒後に手元スイッチの「DOWN」ボタンを解除します。コントロール手元スイッチを使用してジブを上昇させます。次いで、コントロールパネルを使用してこのテストを繰り返します。これは、自動停止の適切な機能をチェックするテストです。

**即時停止:** 即時停止機能をテストするには、リモートコントロール手元スイッチを操作してジブを上昇または下降させます。操作を継続しながら、停止ボタンを押します（図 8 を参照）電動動作がただちに停止する必要があります。

電源ボタンを押して正常な機能にリセットします（図 8 を参照）。コントロールパネル使用このテストを繰り返します。正常な機能へのリセット。このチェックを、シャーシの開脚 / 閉脚機能、およびリセット電源ボタンに対しても繰り返します。

**幅調節可能なシャーシ機能:** コントロール手元スイッチまたはコントロールパネルを使用して、シャーシ脚部の開閉を行い、完全かつ効率的な動作をチェックします。

**一般的なリフト（持ち上げ）条件:** 使用中に損傷が発生していないことを確認するため、すべての外部部品の一般的な目視検査を行い、すべての機能をテストして正しい操作を確認します。

**注意:** MAXI MOVE が適切に機能しているかどうか疑いがある場合、または不具合がある場合は、これを使用しないで、最寄の Arjo サービス部門にご連絡ください。

## 点検整備に関するアドバイス

Arjo は、MAXI MOVE が定期的間隔で保守されることを推奨します。MAXI MOVE 予防保全計画（Arjo 文書番号 001.25065）を参照してください。

通常の使用で以下の品目は摩耗の対象となります：スリング、バッテリー、ストラップおよびキャスター。これらの品目は、前述のように定期的にチェックされず、必要に応じて交換してください。

**警告:** 患者と使用している間は、保守及びリフトの点検整備は絶対に行わないでください。

**警告:** UK 向けリフトのみ：1998 年 12 月 5 日に重要な法律が施行されました。これは患者用リフト、様々な高さの風呂、その他の昇降機器の点検整備計画に影響を与えるものです。当該機器の所有者は以下の法規を満たさなくてはなりません：持ち上げ操作および持ち上げ機器に関する規定 (LOLER : 1998)、作業機器の提供と使用に関する規定 (PUWER 98)。当該法規に準拠するため、6 ヶ月ごとに実行される徹底的検査計画が開発されました。詳細は、Arjo Service UK にお問い合わせください。

部品リストおよび回路図は、ご要望に応じて Arjo またはその正規販売代理店から入手可能です。補修部品は Arjo またはその正規販売代理店から提供可能です。

特定のコンポーネントの交換には特殊な工具が必要です。この製品を維持管理するために最もシンプル、安全かつ効果的な方法は、Arjo の認定補修部品を使用し、Arjo 認定代理店による系統的かつ専門的サービスを活用する方法です。

修理および保守取扱説明書を含むサービス、ならびに保守契約に関する情報は、最寄の Arjo 販売代理店にお問い合わせください。

# トラブルシューティング

リフトの問題		解像度
手元スイッチが応答しない		<ul style="list-style-type: none"> <li>コントロールボックス上の赤の停止ボタンをチェックしてください。</li> <li>手元スイッチコード上のコネクタをチェックしてください。</li> <li>バッテリーを確認してください（満充電されたバッテリーと交換してください）。</li> </ul>
コントロールボックス上の「UP」ボタンと「DOWN」ボタンが応答しない		<ul style="list-style-type: none"> <li>コントロールボックス上の赤のボタンをチェックしてください。</li> <li>バッテリーを確認してください（満充電されたバッテリーと交換してください）。</li> </ul>
電動式 DPS が応答しない		<ul style="list-style-type: none"> <li>コントロールボックス上の赤の停止ボタンをチェックしてください。</li> <li>手元スイッチが接続されているかどうかチェックしてください。</li> <li>キャリバーが適切に取り付けられているかどうかチェックしてください。</li> </ul>
コントロールボックスが可聴の「ピープ音」を 30 秒ごとに 2 回発生する		<ul style="list-style-type: none"> <li>バッテリー残量が低下しています。新たに充電されたバッテリーと交換してください。</li> </ul>
コントロールボックスが可聴の「ピープ音」を 3 回発生し、本リフトが遮断される		<ul style="list-style-type: none"> <li>バッテリー残量が低下しています。新たに充電されたバッテリーと交換してください。</li> </ul>
コントロールボックスは 1 秒間ピープ音を発し、ハンドセットのスクリーンの色が赤から黒に変わる		<ul style="list-style-type: none"> <li>リフトはロックされます。下ボタンを押して、ジブを下げアンロックします。</li> </ul>
コントロールボックスが上記以外の条件で可聴のピープ音を発する		<ul style="list-style-type: none"> <li>Arjo のサービス担当者にお問い合わせください。</li> </ul>
アクチュエータが持ち上げ中に「失速する」		<ul style="list-style-type: none"> <li>バッテリー残量が低下しています。新たに充電されたバッテリーと交換してください。持ち上げ能力を超えないでください。</li> </ul>
充電器問題		
壁掛け式バッテリー充電器 — 取扱説明書 001-24257-** を参照してください。		
バッテリーに関するトラブル		解像度
バッテリーが正しく設置されているが、ランプが点かない		<ul style="list-style-type: none"> <li>修理を依頼してください（充電器が故障している可能性があります）。</li> </ul>
数時間にわたる充電後にも黄色のインジケータランプが消灯しない		<ul style="list-style-type: none"> <li>バッテリーを交換する必要があります。Arjo にご連絡の上、交換を依頼してください。</li> </ul>
バッテリーが充電器にあるときはフル充電されたことが表示されるが、リフトに取り付けるとわずか数回の持ち上げしか行わない		<ul style="list-style-type: none"> <li>バッテリーを交換する必要があります。Arjo にご連絡の上、交換を依頼してください。</li> </ul>

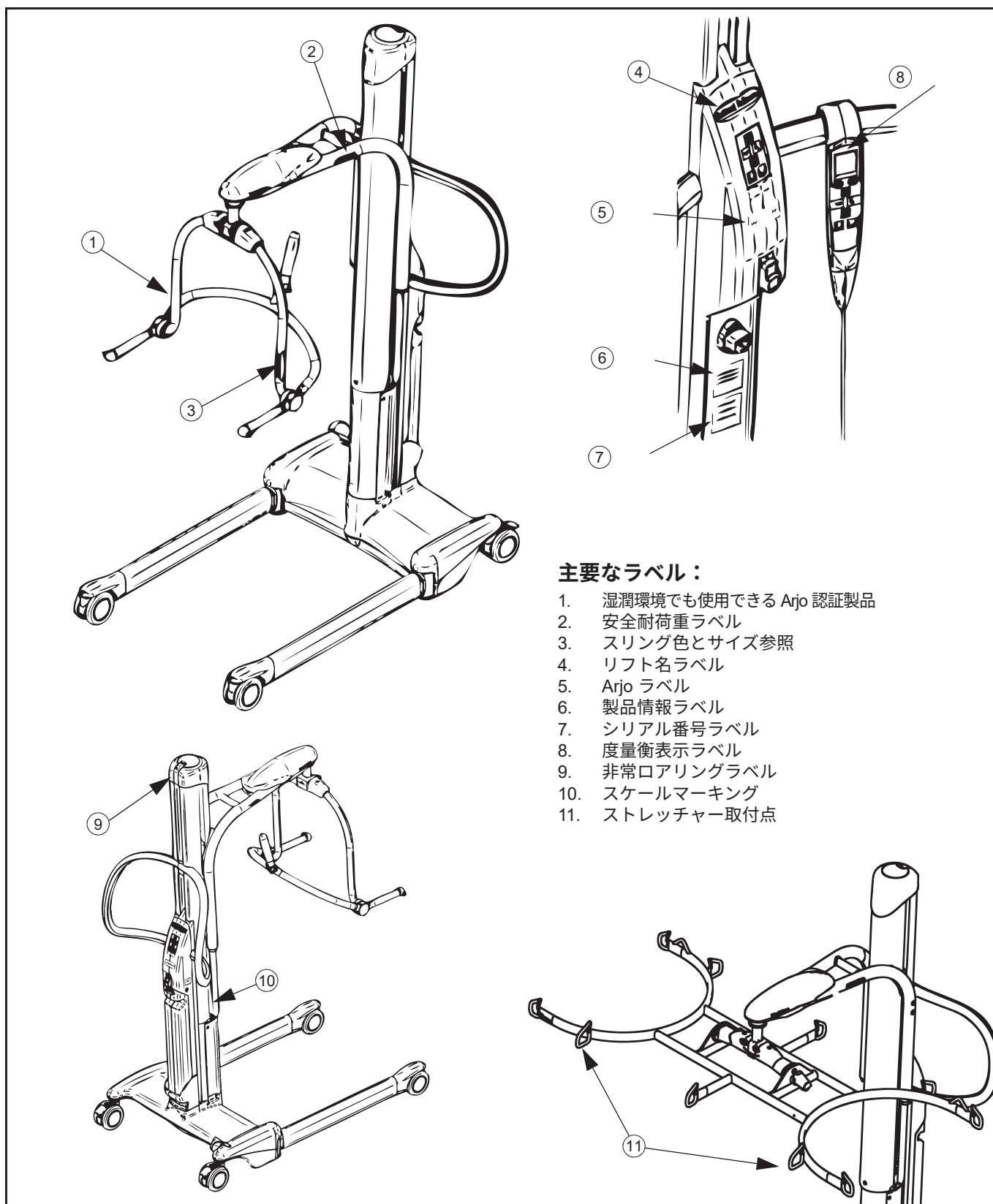


図 70



# 技術仕様

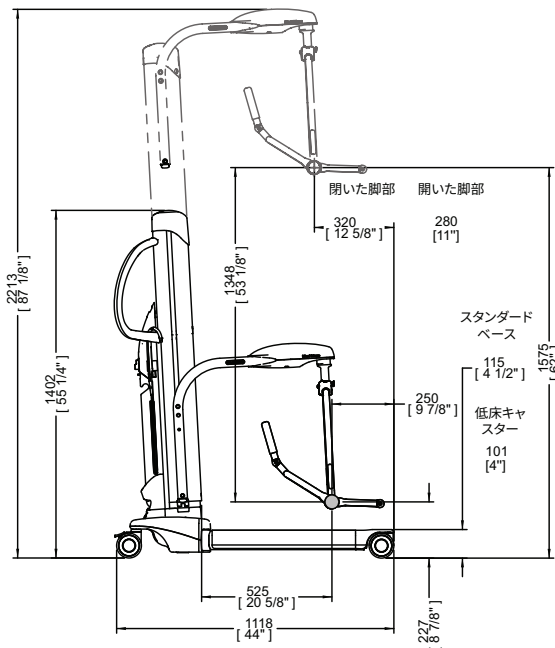
製品情報 MAXI MOVE	
総重量 (標準リブ、付属品なし)	64.5 kg (142 lb)
持ち上げ能力 (SWL)	標準ジブ : 227 kg (500 lb) 拡張ジブ : 130 kg (287 lb)
バッテリーパックの重量	5.0 kg (11 lb)
回転直径寸法	1222 mm (48 in)
最低ドア要件	717 mm (28.25 in) 標準ベース用 (KMCS**) & ロープロファイルベース用 (KMCL**) 770 mm (30 3/8 in) 超ロープロファイルベース用 (KMCE**)
コントロールの操作力	2.5- 3N
電気仕様	
保護等級	IPx7 - 手元スイッチ IP24 - MAXI MOVE
内部電源機器	24 Vdc
バッテリータイプ	充電式 (密閉形鉛蓄電池)
バッテリー容量	24 Vdc、 4.0 Ah ~ 5.5 Ah
バッテリー充電器入力 (部品番号 NDA8200)	100 ~ 240 Vac/50 ~ 60 Hz
昇降時の電流制限	12 ± 1 Amp.
デューティサイクル	15% - 最大 2 分間の連続使用
音響出力レベル (上昇時)	61.9 dBA
音響出力レベル (下降時)	61.7 dBA
ヘルスケア・福祉機器	IEC 60601-1 に基づく感電に対する BF 型保護。
<p>本 Arjo 製品は、電磁環境適合性の要件規格 IEC 60601-1-2 に適合しています。</p> <p>MAXI MOVE は、適用される副規則や各国別の要求項目を含む IEC 60601-1 シリーズに適合しています。</p> <p>MAXI MOVE はまた、ISO 10535 規格に対応しています (ただし、ストレッチャーと併せて使用される場合を除きます。 「MAXI MOVE の使用」セクションを参照)。</p>	
<p><b>警告:</b> ポータブル RF 通信機器 (アンテナケーブルや外部アンテナなどの周辺機器を含む) は、メーカー指定のケーブルを含む Maxi Twin リフトのすべての部品から 30 cm 以上離して使用しなければなりません。守らない場合、この機器の性能が低下することがあります。</p> <p>詳細は「電磁両立性」セクションを参照してください。</p>	
デジタルスケールの仕様	
計量範囲	227 kg (500 lb)
表示の解像度と形式	0.1 kg (0.2 lb)、液晶ディスプレイ
精度 (稼動時)	2-50 kg ±50 g/4-110 lb ±0.1 lb クラス III 50-200 kg ±100 g/100-440 lb ±0.2 lb 200-227 kg ±150 g/440-500 lb ±0.3 lb
操作条件と保管条件	
周囲温度の範囲	操作 : 5° ~ 40°C (+41° ~ +104°F) 保管 : - 25° ~ 70°C (-13° ~ 158°F)
相対湿度の範囲	操作 : 15 ~ 93% (結露なきこと) 保管 : 最大 93% (結露なきこと)
大気圧の範囲	操作 : 795 hPa ~ 1060 hPa (最大 2000 m) 保管 : 500 ~ 1060 hPa
<p><b>警告:</b> 機器を空気や酸素、または亜酸化窒素との可燃性麻醉薬混合ガスがある所では使用、または保管しないでください。この環境で MAXI MOVE を使用すると、爆発の原因となることがあります。本リフトは、内部で何らかの火花が発生した場合、気体を点火する可能性があります。</p>	
使用終了後の安全な廃棄	
バッテリー	密閉形鉛蓄電池、充電式、リサイクル可能。 製品に付属しているすべてのバッテリーは別々にリサイクルしなければなりません。 バッテリーは、国または地方条例に従って廃棄してください。
梱包	段ボール箱 : リサイクル可能 発泡スチロール (EPS) : リサイクル可能

リフトおよびその付属品	分別してリサイクル。 スプレッターバー、レール、レール保持部材のような主にさまざまな金属で構成される部品（重量で 90% 以上が金属）は、金属としてリサイクルしてください。
電気および電子部品	電気および電子部品または電気コードがあるリフト関連製品は、電気・電子機器の廃棄 (WEEE) または地方自治体あるいは国の法令に従って分解し、リサイクルしてください。
スリング	補強材、安定材、緩衝材およびその他の繊維またはポリマー、プラスチック材等を含むスリングは、可燃性廃棄物に分類してください。

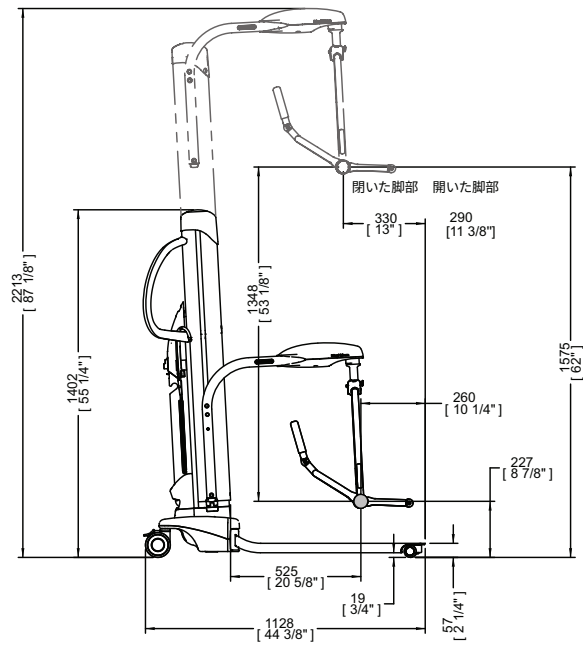
## リフト寸法

1) ホイスト無負荷時寸法

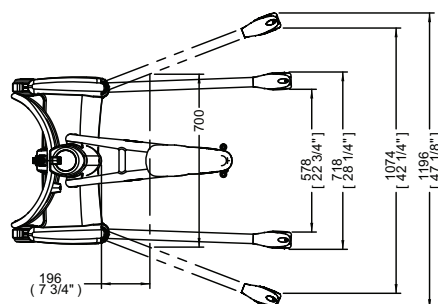
2) 寸法公差 :  $\pm 10 \text{ MM}$  (3/8")



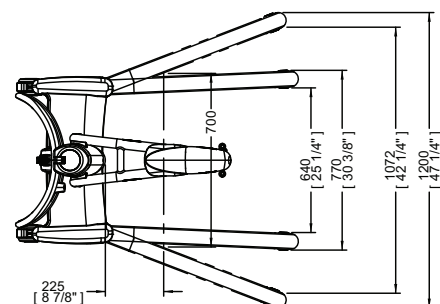
DPS スプレッターバー搭載、標準、低床キャスター仕様 (標準ジブ) の場合



DPS スプレッターバー搭載、超低床キャスター仕様 (標準ジブ) の場合



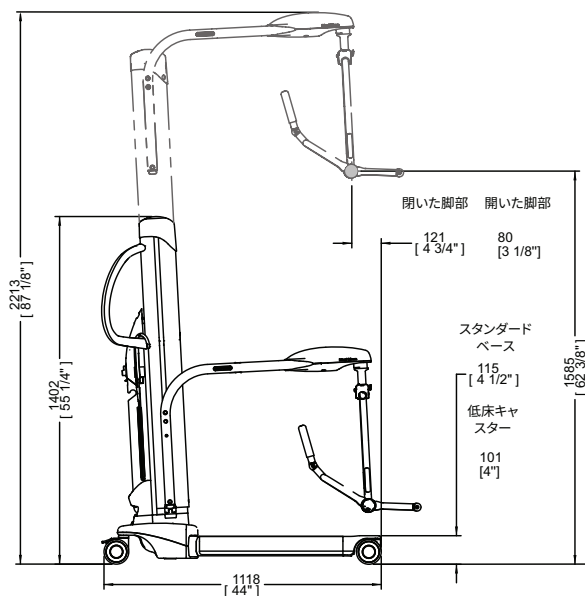
ベース寸法  
標準ベース&ロープロファイルベース



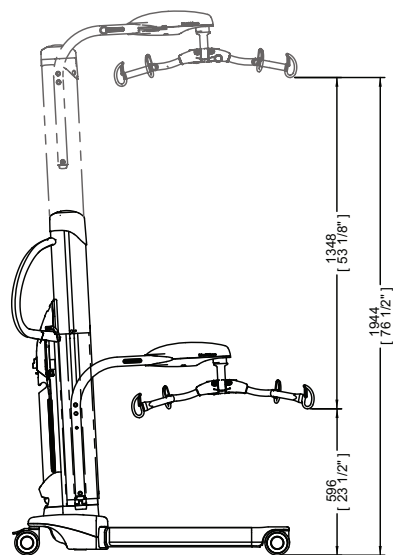
ベース寸法  
超低床キャスター仕様

リフト寸法

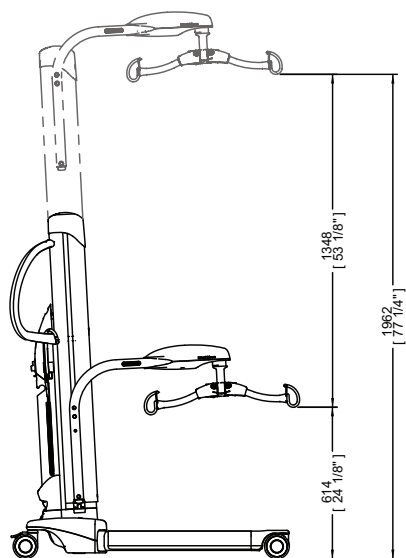
- 1) ホイスト無負荷時寸法
- 2) 寸法公差 : ± 10 MM (3/8")



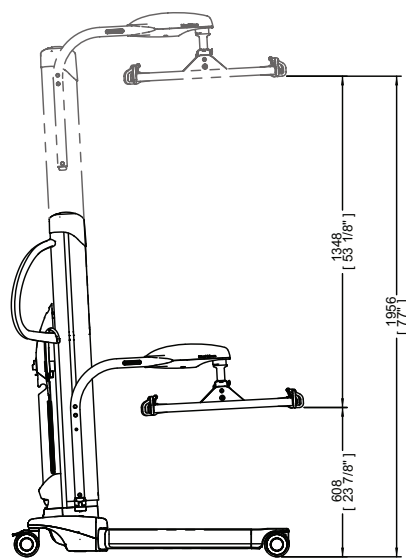
DPS スプレッダーバー搭載、スタンダードベース & ロープファイルベース (延長ジブ) の場合



4 点式ループスプレッダーバーの場合



2 点式ループスプレッダーバーの場合



ストレッチャースプレッダーバーの場合

# 付録 — スケール重力コード設定

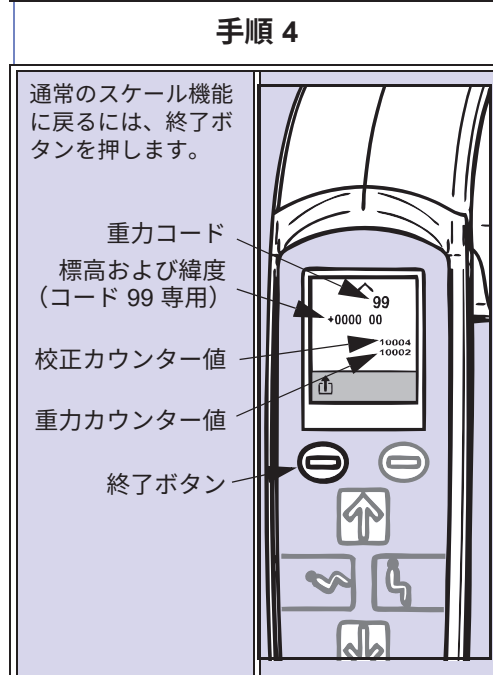
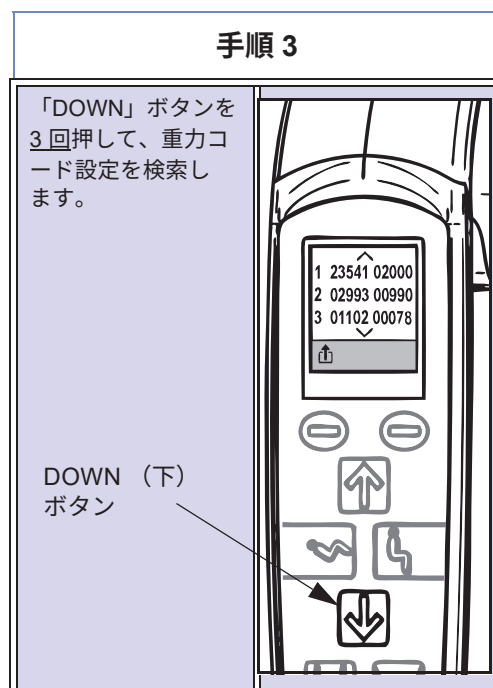
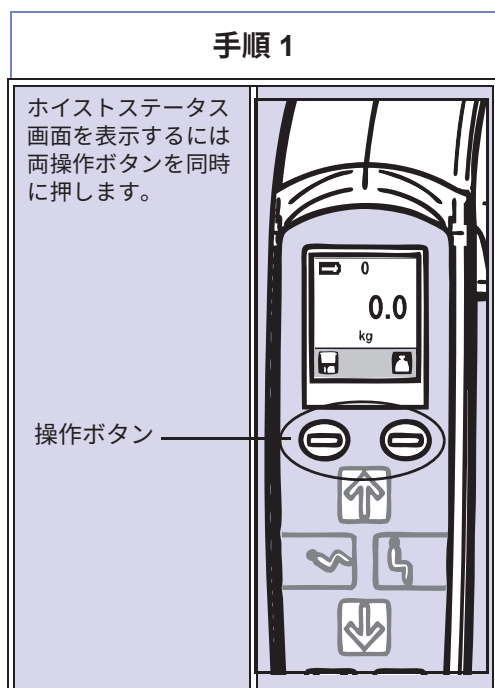
スケール付き MAXI MOVE 床走行式リフトが欧州で販売される場合、理事会指令 90/384/EEC（改正を含む）の要件に関するスケールの適合性は、EN45501-8.2 で記載する試験によって証明されています。この適合性の検証は、本製品の引き渡しに先立って重力が調整され、スケールのマーキングで校正・重力カウンターによって封印されていることから、その使用位置でのみ有効です。

2 桁の重力コードが、使用される地理的な位置に従って本スケールに割り当てられています。このコードは、以下に記述されている手順で確認することができます。

注記：この事前設定コードが 99 である場合、そのスケールが使用される場所の特定の地理的な位置対応する正確な緯度と経度に調整されていることを意味します。

注記：重力コードを操作メニューを使用して変更することはできません。詳しくは、最寄の Arjo 代理店にお問い合わせください。

## 重力コード設定の表示



# 電磁両立性

## 電磁コンプライアンス

MAXI MOVE は、外部環境から EMI（電磁干渉）を遮断する能力に関して、現行の規制基準への準拠がテストされています。

しかしながら、一部の手順は電磁干渉の軽減に役立ちます。

- 患者様のモニタリングおよび/または生命維持装置などが、電磁エミッション規格に準拠しているか確認してください。
- 電子医療装置間の距離を最大にしてください。高周波・高出力デバイスは本リフトに影響を与える可能性がある EMI を発生することがあります。

本製品の RF（無線周波数）電磁環境をどのように管理するかについての詳しい情報は、AMI TIR 18-1997 - *Guidance on Electromagnetic Compatibility of Medical Devices for Clinical/Biomedical Engineers*（臨床技師/ 医用生体技師のための医療装置の電磁両立性に関するガイダンス）を参照してください。

**警告：** Arjo が指定または提供していないアクセサリ、コード、交換部品を使用すると、この機器における電磁エミッションの増加または電磁イミュニティの減少を引き起こし、不適切な動作につながる可能性があります。

**警告：** 本製品を他の機器に隣接して、または他の機器と積み重ねて使用すると、誤作動することがあります。このような使用方法が必要な場合、本製品と他の機器を観察して、正常に作動しているか、まず確認してください。

**警告：** 本製品は電波障害を起こしたり、近くの機器の動作を妨害することがあります。まわりの機器の再配線、再配置あるいは場所を隔離するなどの措置が必要になることがあります。

## 電磁エミッション

ガイダンス およびメーカーの宣言 — 電磁エミッション — 全機器およびシステム用		
MAXI MOVE は、以下に示す電磁環境における使用を意図しています。MAXI MOVE の顧客またはユーザーは、製品がこの様な環境下で使用できることを確認しなければなりません。		
エミッション試験	コンプライアンス	電磁環境 — ガイダンス
RF エミッション CISPR 11	グループ 1	MAXI MOVE は、RF エネルギーをその内部機能のためにのみ使用します。従って、その RF エミッションは非常に低いため、近隣の電子機器に何らかの影響を及ぼし難くなっています。
RF エミッション CISPR 11	クラス B	MAXI MOVE は、家庭用施設、および家庭用に使用される建物に供給する公共低電圧電力供給ネットワークに直接接続されたものを含む、あらゆる施設での使用に適しています。



## 電磁イミュニティ

### ガイダンス およびメーカーの宣言 — 電磁イミュニティ — 全機器およびシステム用

MAXI MOVE は、以下に示す電磁環境における使用を意図しています。MAXI MOVE の顧客またはユーザーは、製品がこの様な環境下で可以使用することを確認しなければなりません。

イミュニティ試験	IEC 60601 試験レベル	コンプライアンスレベル	電磁環境 — ガイダンス
静電気放電 (ESD)  IEC 61000-4-2	±8 kV 接触  ±15 kV 空中	±8 kV 接触  ±15 kV 空中	床はフローリング、コンクリートあるいはセラミックタイルにしてください。床が合成材に変更された場合、相対湿度は最低 30% にしなければなりません。
伝導性 RF IEC 61000-4-6	0.15 ~ 80 MHz 間の ISM 周波数帯外 3 V  0.15 ~ 80 MHz 間の ISM およびアマチュア無線周波数帯内 6 V	0.15 ~ 80 MHz 間の ISM 周波数帯外 3 V  0.15 ~ 80 MHz 間の ISM およびアマチュア無線周波数帯内 6 V	該当なし
放射 RF IEC 61000-4-3	10 V/m 80 MHz ~ 2.7 GHz	10 V/m 80 MHz ~ 2.7 GHz	該当なし
電氣的ファースト・トランジェント / バースト  IEC 61000-4-4	±1 kV 入出力ポート用  100 kHz 繰返し周波数	±1 kV 入出力ポート用  100 kHz 繰返し周波数	主電源は一般的な商用あるいは病院環境のものを使用してください。
電源周波数 (50/60 Hz) 磁界 IEC 61000-4-8	30 A/m 50/60 Hz にて	30 A/m 50/60 Hz にて	電力周波数磁場は、一般商用または病院環境での典型的な場所での特性レベルである必要があります。
RF無線通信機器の近接フィールド IEC 61000-4-3 (続く)	380 ~ 390 MHz 27 V/m; PM 50%; 18 Hz  430 ~ 470 MHz 28 V/m; (FM ±5 kHz, 1 kHz 正弦) PM; 18 Hz  704 ~ 787 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	380 ~ 390 MHz 27 V/m; PM 50%; 18 Hz  430 ~ 470 MHz 28 V/m; (FM ±5 kHz, 1 kHz 正弦 ) PM; 18 Hz  704 ~ 787 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	該当なし

# 電磁両立性

イミュニティ試験	IEC 60601 試験レベル	コンプライアンスレベル	電磁環境 – ガイダンス
(続く) RF 無線通信機器の 近接フィールド IEC 61000-4-3	800 ~ 960 MHz 28 V/m; PM 50%; 18 Hz  1700 ~ 1990 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz  2400 ~ 2570 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz  5100 ~ 5800 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	800 ~ 960 MHz 28 V/m; PM 50%; 18 Hz  1700 ~ 1990 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz  2400 ~ 2570 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz  5100 ~ 5800 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	該当なし

ページは意図的に空白にしています

ページは意図的に空白にしています

**AUSTRALIA**

Arjo Australia  
Building B, Level 3  
11 Talavera Road  
Macquarie Park, NSW, 2113, Australia  
Phone: 1800 072 040

**BELGIQUE / BELGIË**

Arjo Belgium nv  
Evenbroekveld 16  
9420 Erpe-Mere  
Belgium  
T: +32 (0) 53 60 73 80  
F: +32 (0) 53 60 73 81  
E-mail: info.belgium@arjo.com

**BRASIL**

Arjo Brasil Equipamentos Médicos Ltda  
Rua Marina Ciufuli Zanfelize, 329 PB02 Galpão  
- Lapa  
São Paulo – SP – Brasil  
CEP: 05040-000  
Phone: 55-11-3588-5088  
E-mail: vendas.latam@arjo.com  
E-mail: servicios.latam@arjo.com

**CANADA**

Arjo Canada Inc.  
90 Matheson Boulevard West  
Suite 300  
CA-MISSISSAUGA, ON, L5R 3R3  
Tel/Tél: +1 905 238 7880  
Free: +1 800 665 4831 Institutional  
Free: +1 800 868 0441 Home Care  
Fax: +1 905 238 7881  
E-mail: info.canada@arjo.com

**ČESKÁ REPUBLIKA**

Arjo Czech Republic s.r.o.  
Na Strži 1702/65  
140 00 Praha  
Czech Republic  
Phone No: +420225092307  
e-mail: info.cz@arjo.com

**DANMARK**

Arjo A/S  
Vassingerødvej 52  
DK-3540 LYNGE  
Tel: +45 49 13 84 86  
Fax: +45 49 13 84 87  
E-mail:  
dk\_kundeservice@arjo.com

**DEUTSCHLAND**

Arjo GmbH  
Peter-Sander-Strasse 10  
DE-55252 MAINZ-KASTEL  
Tel: +49 (0) 6134 186 0  
Fax: +49 (0) 6134 186 160  
E-mail: info-de@arjo.com

**ESPAÑA**

Arjo Ibérica S.L.  
Parque Empresarial Rivas Futura, C/Marie Curie 5  
Edificio Alfa Planta 6 oficina 6.1-.62  
ES-28521 Rivas Vacia, MADRID  
Tel: +34 93 583 11 20  
Fax: +34 93 583 11 22  
E-mail: info.es@arjo.com

**FRANCE**

Arjo SAS  
2 Avenue Alcide de Gasperi  
CS 70133  
FR-59436 RONCQ CEDEX  
Tél: +33 (0) 3 20 28 13 13  
Fax: +33 (0) 3 20 28 13 14  
E-mail: info.france@arjo.com

**HONG KONG**

Arjo Hong Kong Limited  
Room 411-414, 4/F,  
Manhattan Centre,  
8 Kwai Cheong Road,  
Kwai Chung, N.T.,  
HONG KONG  
Tel: +852 2960 7600  
Fax: +852 2960 1711

**ITALIA**

Arjo Italia S.p.A.  
Via Giacomo Peroni 400-402  
IT-00131 ROMA  
Tel: +39 (0) 6 87426211  
Fax: +39 (0) 6 87426222  
E-mail: Italy.promo@arjo.com

**MIDDLE EAST**

Arjo Middle East FZ-LLC  
Office 908, 9th Floor,  
HQ Building, North Tower,  
Dubai Science Park,  
Al Barsha South  
P.O Box 11488, Dubai,  
United Arab Emirates  
Direct +971 487 48053  
Fax +971 487 48072  
Email: Info.ME@arjo.com

**NEDERLAND**

Arjo BV  
Biezenwei 21  
4004 MB TIEL  
Postbus 6116  
4000 HC TIEL  
Tel: +31 (0) 344 64 08 00  
Fax: +31 (0) 344 64 08 85  
E-mail: info.nl@arjo.com

**NEW ZEALAND**

Arjo Ltd  
34 Vestey Drive  
Mount Wellington  
NZ-AUCKLAND 1060  
Tel: +64 (0) 9 573 5344  
Free Call: 0800 000 151  
Fax: +64 (0) 9 573 5384  
E-mail: nz.info@Arjo.com

**NORGE**

Arjo Norway AS  
Olaf Helsets vei 5  
N-0694 OSLO  
Tel: +47 22 08 00 50  
Faks: +47 22 08 00 51  
E-mail: no.kundeservice@arjo.com

**ÖSTERREICH**

Arjo GmbH  
Lemböckgasse 49 / Stiege A / 4.OG  
A-1230 Wien  
Tel: +43 1 8 66 56  
Fax: +43 1 866 56 7000

**POLSKA**

Arjo Polska Sp. z o.o.  
ul. Ks Piotra Wawrzyniaka 2  
PL-62-052 KOMORNIKI (Poznań)  
Tel: +48 61 662 15 50  
Fax: +48 61 662 15 90  
E-mail: arjo@arjo.com

**PORTUGAL**

Arjo em Portugal  
MAQUET Portugal, Lda.  
(Distribuidor Exclusivo)  
Rua Poeta Bocage n.º 2 - 2G  
PT-1600-233 Lisboa  
Tel: +351 214 189 815  
Fax: +351 214 177 413  
E-mail: Portugal@arjo.com

**SUISSE / SCHWEIZ**

Arjo AG  
Fabrikstrasse 8  
Postfach  
CH-4614 HÄGENDORF  
Tél/Tel: +41 (0) 61 337 97 77  
Fax: +41 (0) 61 311 97 42

**SUOMI**

Arjo Scandinavia AB  
Riihitontuntie 7 C  
02200 Espoo  
Finland  
Puh: +358 9 6824 1260  
E-mail:  
Asiakaspalvelu.finland@arjo.com

**SVERIGE**

Arjo International HQ  
Hans Michelsensgatan 10  
SE-211 20 MALMÖ  
Tel: +46 (0) 10 494 7760  
Fax: +46 (0) 10 494 7761  
E-mail: kundservice@arjo.com

**UNITED KINGDOM**

Arjo UK and Ireland  
Houghton Hall Park  
Houghton Regis  
UK-DUNSTABLE LU5 5XF  
Tel: +44 (0) 1582 745 700  
Fax: +44 (0) 1582 745 745  
E-mail: sales.admin@arjo.com

**USA**

Arjo Inc.  
2349 W Lake Street Suite 250  
US-Addison, IL 60101  
Tel: +1 630 307 2756  
Free: +1 800 323 1245 Institutional  
Free: +1 800 868 0441 Home Care  
Fax: +1 630 307 6195  
E-mail: us.info@arjo.com

**JAPAN**

Arjo Japan K.K.  
東京都港区虎ノ門三丁目7番8号 ランディック第  
2虎ノ門ビル9階  
電話 : +81 (0)3-6435-6401

Address page - REV 25: 01/2020



At Arjo, we are committed to improving the everyday lives of people affected by reduced mobility and age-related health challenges. With products and solutions that ensure ergonomic patient handling, personal hygiene, disinfection, diagnostics, and the effective prevention of pressure ulcers and venous thromboembolism, we help professionals across care environments to continually raise the standard of safe and dignified care. Everything we do, we do with people in mind.



ArjoHuntleigh AB  
Hans Michelsensgatan 10  
211 20 Malmö, Sweden  
[www.arjo.com](http://www.arjo.com)

**arjo**



001.25060.JP

**CE**  
2797